OLYMPUS®

デジタルカメラ

E-500

取扱説明書

応用編

- この取扱説明書は、撮影・再生機能やカメラの機能・設定のカスタマイズ、撮った画像のパソコンへの取込みなど応用的なテクニックについて説明しています。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

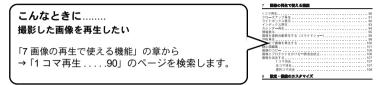
本書の使い方

本書では、使いたい機能・知りたい機能をすぐに検索できるように、もくじ、索引、メニュー一覧のページが用意されています。

もくじから探す ☞ P 4

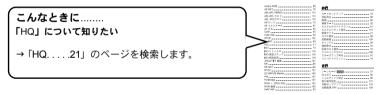
本書の全タイトルが並べられています。カメラを使い始める前に読む章や、撮影の基本操作を覚えたいときに読む章などの目的別に構成されています。.

こんなときに........
撮影した画像を再生したい

「7 画像の再生で使える機能」の章から
→「1 コマ再生 . . . . .90」のページを検索します。

索引から探す ☞ P 205

本書で使っている機能名などの用語が50音順に並べられています。本書を読んでいて、分からない言葉や知りたい言葉がでてきたときに、索引からその用語を使っているページを探すことができます。カメラの各部名称や液晶モニタに表示される内容の一覧も巻末に集められています。

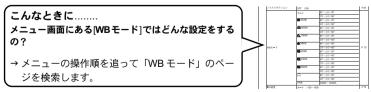
こんなときに........
「HQ」について知りたい

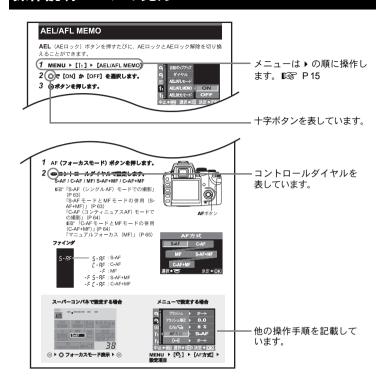
→「HQ. . . . .21」のページを検索します。

メニュー一覧から探す ☞ P 176

カメラのメニュー名がツリー構造で記載されています。メニューを操作しているときに、知りたいメニュー名がでてきたときはメニュー一覧からその機能の説明ページを探すことができます。

こんなときに........
メニュー画面にある[WBモード]ではどんな設定をするの？

→ メニューの操作順を追って「WB モード」のページを検索します。

ノイズリダクション	OFF　/ ON		P 87
WBモード	オート	B7～±0～R7	P 79
		G7～±0～M7	
	5300K	B7～±0～R7	
		G7～±0～M7	
	6000K	B7～±0～R7	
		G7～±0～M7	
	7500K	B7～±0～R7	
		G7～±0～M7	
	3000K	B7～±0～R7	
		G7～±0～M7	
	4000K	B7～±0～R7	
		G7～±0～M7	
	4500K	B7～±0～R7	
		G7～±0～M7	
	6600K	B7～±0～R7	
		G7～±0～M7	
		B7～±0～R7	
		G7～±0～M7	
	CWB	2000K～14000K	
ISO感度	オート　/ 100～1600		P 74

本書の操作説明の読み方は、「操作説明ページの見方」（P 3）をご覧ください。

操作説明ページの見方

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

本書の表記について

記号	説明
①	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
こんなときは	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

もくじ

1　カメラの基本操作

2　撮影前に知っておきたいこと

3　撮りたいものに合わせて設定する

4　いろいろな撮影機能

5　ピント合わせの機能

6　露出・色・画像

7　画像の再生で使える機能

8 設定・機能のカスタマイズ

9　プリントする

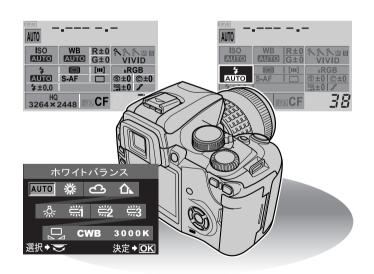
10　パソコンに取り込む

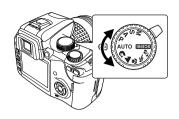
11　付録

12　資料

13　付属品の取扱説明書

1 カメラの基本操作

このカメラはピント・露出・フラッシュ自動ポップアップなどすべての設定値をカメラ側で自動的に決定するかんたん撮影モードを備えています。
また、応用撮影モードから高度な撮影テクニックを選択することもできます。
このカメラは多くの機能を持っていますが、これらの機能は大型の液晶モニタに表示されるメニューを見ながら、簡単にボタン操作で設定できます。
まずは撮影モード、メニュー設定の操作をマスターしましょう。

モードダイヤルの使い方

このカメラは以下の撮影モードを備えており、モードダイヤルを回して切り替えることができます。

かんたん撮影モード

6つのクリエイティブモードおよび15のシーンモードにより、被写体に最適な露出がプログラムされています。

クリエイティブモード

AUTO フルオート撮影

レンズの絞り値（F値）、シャッター速度をカメラ側で自動的に設定します。また暗いときにはフラッシュが自動的にポップアップし、フラッシュ撮影を可能にします。通常はこのモードをおすすめします。

ポートレート撮影

人物撮影をするのに最適です。☞ P 26

風景撮影

風景を撮るのに最適です。☞ P 26

マクロ撮影

被写体に近接した撮影を行うとき（マクロ撮影）に使用します。☞ P 26

スポーツ撮影

スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。☞ P 26

夜景 & 人物撮影

夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。☞ P 26

シーンモード

SCENE シーンモード

撮影状況に合わせた15種類の撮影シーンから選択できます。モードダイヤルをセットしたときにシーンメニューが表示されます。☞ P 27

応用撮影モード

次の4つの撮影モードにより、さまざまな撮影テクニックを使って撮影することができます。

P プログラム撮影

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて設定します。☞ P 31

A 絞り優先撮影

絞り値を自分で設定します。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。
☞ P 33

S シャッター優先撮影

シャッター速度を自分で設定します。絞り値はカメラが自動的に設定します。
☞ P 35

M マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。☞ P 37

フラッシュの自動ポップアップについて

次の撮影モードでは、暗いときにフラッシュが自動的にポップアップします。

- AUTO
- 次のシーンモード時:

スーパーコンパネと各種設定のしかた

スーパーコンパネ表示

1 パワースイッチを ON にすると、液晶モニタにはスーパーコンパネ表示（撮影情報）が出ます。

- 表示されないときは**INFO**ボタンを押してください。
- モードダイヤルが SCENE のときは、シーンメニューが表示されます。☞ P27

基本表示

2 INFO（情報表示）ボタンを押すたび、次のように表示が変わります。

基本表示　詳細表示　表示OFF

設定の方法

このカメラはいろいろな撮影状況に適応できるように、多くの機能を備えています。また使いやすいように機能設定（カスタマイズ）ができます。
設定のしかたには以下の3つの方法があります。

① ダイレクトボタンによる設定
② スーパーコンパネでの設定
③ メニューによる設定

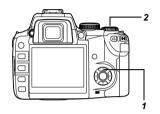
それぞれをマスターして、このカメラの多彩な機能を使いこなしてください。
設定できる機能は、撮影モードにより異なります。

ダイレクトボタンによる設定

1 設定したい各機能のボタン（ダイレクトボタン）を押します。

- ダイレクトメニューが表示されます。

例）ホワイトバランス設定の場合

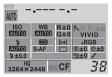
ダイレクトメニュー

2 コントロールダイヤルで設定します。

- 数秒間何も操作しないと、スーパーコンパネ表示に戻り（「ボタン保持時間の設定」P 128）、設定が確定します。また、OKボタンを押しても設定が確定されます。

ダイレクトボタン一覧

	ダイレクトボタン	機能	参照ページ
①	**WB**（ホワイトバランス）ボタン	ホワイトバランス設定	P 79
②	**AF**（フォーカスモード）ボタン	フォーカスモード設定	P 62
③	**ISO**ボタン	ISO感度設定	P 74
④	[･･･]（AFフレーム選択）ボタン	AFフレーム選択	P 61
⑤	（測光）ボタン	測光方法設定	P 69
⑥	/ / （リモコン/ セルフタイマー / ドライブ）ボタン	リモコン/セルフタイマー / 連写	P 54、P 55 P 57
⑦	（露出補正）ボタン	露出補正	P 71
⑧	（フラッシュ）スイッチ	フラッシュモード設定	P 45

スーパーコンパネでの設定

1 **ⓞボタンを押します。**
- スーパーコンパネにカーソルが点灯します。

スーパーコンパネ

カーソル

2 **十字ボタンでカーソルを設定したい機能に移動させます。**

例）ホワイトバランス設定の場合

3 **ⓞボタンを押します。**
- ダイレクトメニューが表示されます。

ダイレクトメニュー

4 **コントロールダイヤルで設定します。**
- 手順 2 を行った後、スーパーコンパネ上でコントロールダイヤルを使って設定することもできます。
- 数秒間何も操作しないとスーパーコンパネ表示に戻り（☞「ボタン保持時間の設定」P 128）、設定が確定します。また、ⓞボタンを押しても設定が確定されます。

スーパーコンパネ操作説明について

本書ではスーパーコンパネでのダイレクトメニューまでの設定操作を次のように表記しています。

例）ホワイトバランス設定の場合

ⓞ ▶ 十字ボタン　**WB 表示** ▶ ⓞ

メニューによる設定

1 MENUボタンを押します。

- 液晶モニタにメニューリストが表示されます。

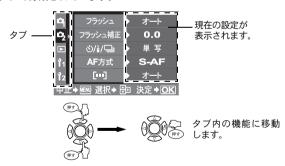
ボタンの操作ガイドが表示されます。

中止 → MENU ： **MENU**を押して設定を中止します。

選択 → ： 十字ボタンのを押して、選択肢を選びます。
表示されるマークは、以下の十字ボタンに該当します。

決定 → OK ： を押して選択肢を決定します。

2 でタブを選択します。

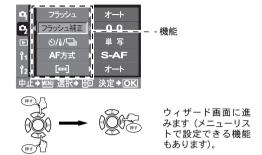
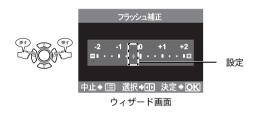
- 設定項目がタブで分類されています。

タブの種類

1	撮影に関する設定をします。
2	撮影に関する設定をします。
▶	再生に関する設定をします。
1	撮影機能をカスタマイズします。
2	カメラを使いやすくする機能を設定します。

3 **機能を選択します。**

ウィザード画面に進みます（メニューリストで設定できる機能もあります）。

4 **設定項目を選択します。**

ウィザード画面

5 **メニューから抜けるまで、繰り返しⓞⓚを押します。**

- 通常の撮影画面に戻ります。

メニュー操作説明について

本書ではメニュー操作を次のように表記しています。

例）ホワイトバランス設定の場合

MENU ▸ ［📷1］ ▸ ［WBモード］ ▸ 設定項目

メニューの全一覧は、「メニュー一覧」（☞ P 176）をご覧ください。

2 撮影前に知っておきたいこと

AUTOモードにしてシャッターボタンを押すだけで、カメラが自動的にピントを合わせて撮影します。それでもピントが合わないときは、カメラが苦手な被写体なのかもしれません。ここでは撮影の基本、ピント合わせの方法を説明します。撮影のコツをしっかり覚えてください。
また、撮った画像をどう使うか、その目的に合わせて画質モードを選ぶことも大切なポイントです。「大きくプリントしたら画像が粗くなった」「メールで送りたいのに容量が大きすぎる」— こんなことがないよう、撮影前には画質モードを確認しましょう。

カードの使い方

このカメラにはカードスロットが2つあり、コンパクトフラッシュまたはマイクロドライブと同時にxD-ピクチャーカードを使用することができます。

使用するカードを選ぶ

使用するカードをxD-ピクチャーカードかコンパクトフラッシュに切り替えます。

1 **MENU ▸ ［⚲2］ ▸ ［記録カード選択］**

2 **で設定します。**

［CF］コンパクトフラッシュを使用します。
［xD］xD-ピクチャーカードを使用します。

3 **OKボタンを押します。**

カードを初期化する

フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしなおしてください。
フォーマットすると、プロテクトをかけた画像を含むすべてのデータは消去されます。すでに使用しているカードをフォーマットするときは、大切なデータが記録されていないことを確認してください。

1 **MENU ▸ ［1］ ▸ ［カードセットアップ］**

2 **で［フォーマット］を選択します。OKボタンを押します。**

3 **で［実行］を選択します。**
OKボタンを押します。

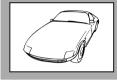
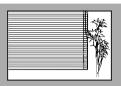
• フォーマットが実行されます。

2
撮影前に知っておきたいこと

ピントが合わないとき（フォーカスロック）

被写体が画面中央にないとき、コントラストが弱いときなど下記のような被写体ではオートフォーカスではピントが合わないことがあります。このような場合の簡単な対処方法にフォーカスロックがあります。

オートフォーカス（AF）が苦手な被写体

合焦マークが点滅
このようなものにはピントが合いません

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

繰り返しパターン

合焦マークは点灯しますが、
写したいものにピントが合いません

遠いものと近いものが混在する場合

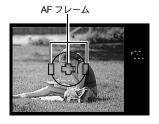
動きの速いもの

被写体がＡＦフレーム内にない

フォーカスロック（被写体が中央にないとき）

1 **ピントを合わせたいものにAFフレームを合わせます。**

2

撮影前に知っておきたいこと

2 **シャッターボタンを合焦マークが点灯するまで半押しします。**

- ピントが固定されます。AF合焦マークと、ピントの合ったAFフレームがファインダで点灯します。
- 合焦マークが点滅したときは、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- スーパーコンパネが消えます。

3 **半押しした状態のまま、撮影したい構図にします。**

4 **シャッターボタンを押し込みます。（全押し）**

- カードアクセスランプが点滅し、画像がカードに記録されます。

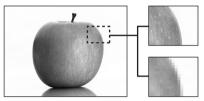
被写体のコントラストが弱いとき

被写体と等距離にあり、コントラストのはっきりしたものでフォーカスロックし、そのまま構図を決めて撮影してください。また縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックし、そのまま構図を横に戻すと効果的です。

画質モードを選択する

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや画像（ピクセル）サイズについてはP 23の表をご覧ください。

画質モードの種類

画質モードでは、記録する画像のピクセル数と圧縮する度合いの組み合わせを選択できます。画像はピクセル（点）の集まりでできていて、ピクセル数が少ない画像を拡大するとモザイク状に表示されます。ピクセル数が多い画像は1枚の画像のファイルサイズ（データの量）が大きくなり、カードに記録できる枚数が少なくなります。また圧縮率が高いほどファイルサイズは小さくなりますが、画像を表示したときに粗く見えます。

画像サイズが大きい場合

画像サイズが小さい場合

画像が精細になる（←）

画像サイズが大きくなる（↑）

<table>
<tr><th rowspan="2">用途</th><th rowspan="2">画像（サイズ）</th><th colspan="5">画質（圧縮率）</th></tr>
<tr><th>非圧縮
1/1</th><th>低圧縮
1/2.7</th><th>高圧縮
1/4</th><th>高圧縮
1/8</th><th>高圧縮
1/12</th></tr>
<tr><td rowspan="2">プリント
サイズに
合わせて選択</td><td>3264×2448</td><td>TIFF</td><td>SHQ</td><td colspan="3">HQ</td></tr>
<tr><td>3200×2400
2560×1920
1600×1200
1280×960
1024×768</td><td rowspan="2">—</td><td colspan="4" rowspan="2">SQ</td></tr>
<tr><td>小さい
プリントや
ホームページ用</td><td>640×480</td></tr>
</table>

画質モードの選択方法

1 MENU ▶［📷1］▶［画質モード］

2 で設定します。

［HQ］/［SQ］/［RAW+SHQ］/［RAW+HQ］/［RAW+SQ］/［RAW］/［TIFF］/［SHQ］

3 OKボタンを押します。

2
撮影前に知っておきたいこと

画像サイズと 圧縮率を設定する

1 MENU ▶ [🔧1] ▶ [HQ設定]
MENU ▶ [🔧1] ▶ [SQ設定]

2 選択している画質モードによって、次の手順を行ってください。

[HQ]

1) で圧縮率を設定します。
[1/4] / [1/8] / [1/12]

[SQ]

1) で画像サイズを設定します。
[3200x2400] / [2560x1920] / [1600x1200] / [1280x960] / [1024x768] / [640x480]

2) で圧縮率を設定します。
[1/2.7] / [1/4] / [1/8] / [1/12]

3 OKボタンを押します。

画質モード

画質モード	画像サイズ	圧縮	ファイル形式	ファイルサイズ（MB）
RAW	3264x2448	非圧縮	ORF	約13.6
TIFF		非圧縮	TIFF	約24.5
SHQ		1/2.7	JPEG	約6.4
HQ		1/4		約4.5
		1/8		約2.5
		1/12		約1.8
SQ	3200x2400	1/2.7		約6.2
		1/4		約4.4
		1/8		約2.4
		1/12		約1.8
	2560x1920	1/2.7		約3.7
		1/4		約2.5
		1/8		約1.3
		1/12		約0.8
	1600x1200	1/2.7		約1.5
		1/4		約1.0
		1/8		約0.5
		1/12		約0.4
	1280x960	1/2.7		約0.9
		1/4		約0.6
		1/8		約0.3
		1/12		約0.2
	1024x768	1/2.7		約0.6
		1/4		約0.4
		1/8		約0.2
		1/12		約0.2
	640x480	1/2.7		約0.3
		1/4		約0.2
		1/8		約0.1
		1/12		約0.1

表内のファイルサイズはおおよその目安です。

注意

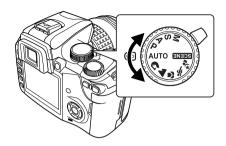
- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもファインダや液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- 実際のファイルサイズは被写体によって変わります。

3 撮りたいものに合わせて設定する

花やアクセサリーなど小さな物をアップで撮影したい、走り回る子どもなど動きの速い被写体をうまく写したい、夜景をバックに撮りたい・・・そんなとき、カメラをどう設定していいか分からず、あきらめてしまったことはありませんか？
このカメラでは、面倒な設定を必要とするような場面でも、かんたん撮影モードからシーンモードを選ぶだけで、簡単に思い通りの写真を撮ることができます。
その他、応用撮影モードから、絞り値やシャッター速度を自分で設定して撮影する方法もあります。どんどん撮って、カメラ撮影の腕を磨いていきましょう。

撮影モード

このカメラはモードダイヤルから次の撮影モードを選ぶことができます。

かんたん撮影モード........................ AUTO, , , , , , SCENE
応用撮影モード................................ P, A, S, M

通常は**AUTO**での撮影をおすすめします。

ファインダおよびスーパーコンパネにはシャッター速度、絞り値が表示されます。SCENEモードのときは、シーンメニューが表示されます。

スーパーコンパネ

1/250 F5.6

ファインダ

シャッター速度の表示

1秒以下のときは、秒数の分母が表示されます。たとえば1/250秒であれば［250］と表示されます。1秒以上のときは、秒数と［"］が表示されます。たとえば、2秒であれば、［2"］と表示されます。

かんたん撮影モード

撮影シーンに合わせて選択すると、カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

クリエイティブモード

1 モードダイヤルを使いたい撮影モードに合わせます。

AUTO　フルオート撮影
被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定します。また暗いときにはフラッシュが自動的にポップアップします。通常はこのモードでの撮影をおすすめします。
ポートレート
風景
マクロ
スポーツ
夜景& 人物
SCENE　15種類のシーンから選べます。☞「シーンモード」(P 27)

2 シャッターボタンを半押しします。

- ピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- ファインダに、カメラが自動的に決定したシャッター速度や絞り値が表示されます。

3 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。

- カードに画像が記録されます。

3
撮りたいものに合わせて設定する

シーンモード

1 モードダイヤルをSCENEに設定します。

- シーンメニューが表示されます。

2 ⊕⊖でシーンモードを選択します。

- 選択している撮影シーンのサンプル画像と説明が表示されます。

3 OKボタンを押します。

- カメラが撮影モードに入ります。
- 設定変更したいときは、OKボタンを再度押すとシーンメニューが表示されます。

1 ポートレート

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。

2 風景

風景を撮るのに最適です。近景から遠景までピントが合うように写します。また青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然の中での撮影には効果的です。

3 風景＆人物

人物と風景をいっしょに撮るのに最適です。
近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。

4 夜景

夜景を撮るのに最適です。

街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので、光っている点だけの画像になってしまいます。夜景モードでは、街の様子も写し出します。

- 夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。

5 夜景＆人物

夜の景色と人物をいっしょに撮るのに最適です。

夜景&人物撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。

- フラッシュは赤目軽減モードで発光します。
  ☞「フラッシュ撮影」(P 42）

6 チャイルド

連続的にピントを合わせ続けるので、動き回る子供を撮影するのに最適です。

7 スポーツ

スポーツなどの動きのある被写体を撮るときに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮影することができます。

HI 8 ハイキー

全体が明るいシーンに最適です。明るいところを明るく印象的に再現します。

LOW 9 ローキー

全体が暗いシーンに最適です。黒つぶれせずに暗いところを暗く再現します。

10 マクロ

レンズを絞り込み、被写体深度が深くなるため、被写体に近接した撮影を行うとき（マクロ撮影）に使用します。

- フラッシュ使用時は影が目立ったり、適正な明るさにならないことがあります。

11 キャンドル

キャンドルライトを活かした画像を撮るのに最適です。温かみのある色が再現されます。

- フラッシュは使えません。

12 夕日

夕景を撮るのに最適です。赤や黄色を鮮やかに再現します。

- フラッシュは使えません。
- シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。

13 打ち上げ花火

夜空に打ち上げられた花火を撮るのに最適です。

- シャッター速度が遅くなりますので、カメラを固定して撮影してください。
- フラッシュは使えません。
- AFは使えません。マニュアル操作（MF）でピントを合わせてください。

14 文章

Motion JPEG Image & Sound Recording*
With the provided 8MB SmartMedia, Motion JPEG image & sound recording up to 15 seconds in HQ mode (320x240 pixels) or 62 seconds in SQ mode (160x120 pixels) is possible.
* Sound is recorded in Wave format.

Built-In Microphone
With the built-in microphone, you can record up to 4 seconds of sound per still image.

Picture Effects
Black & White, Sepia, White Board, or Black Board can be selected, giving you greater control over image style. With White Board and Black Board modes, pictures of letters can be taken extra-clearly.

書類や時刻表を撮るのに最適です。文字と背景の明暗をはっきりと再現します。

- フラッシュは使えません。

15 ビーチ＆スノー

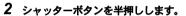
晴天の海や雪山で撮影するのに最適です。空・緑・人物をきれいに再現します。

応用撮影モード

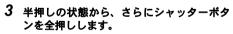
絞り値、シャッター速度を任意に設定し、より高度な撮影ができます。

P：プログラム撮影

被写体の明るさに応じて、最適な絞り値とシャッター速度をカメラが自動的に設定するオート露出モードです。フラッシュを使用しないときはこのモードを使用すると便利です。
また、プログラムシフトを使って、適正露出のまま絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更することもできます。

1 モードダイヤルをPにします。

2 シャッターボタンを半押しします。

- ピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- ファインダに、カメラが自動的に決定したシャッター速度や絞り値が表示されます。

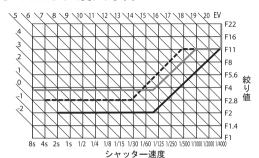
3 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。

- カードに画像が記録されます。

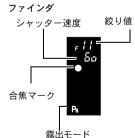
P モードの絞り値とシャッター速度

Pモードのときは、被写体の明るさに応じて、下のグラフ（プログラム線図）のように、絞り値とシャッター速度が選択されるようにプログラムされています。プログラム線図は装着するレンズによって変わります。

ED 50mm F2 MACRO の場合
（例: EV値が7の場合、絞り値はF2、シャッター速度は1/30となります。）

ズームレンズ（14mm-54mm F2.8-3.5）の場合（焦点距離:45mm時）

ズームレンズ（14mm-54mm F2.8-3.5）の場合（焦点距離:14mm時）

プログラムシフト（Ps）

Pモードのときコントロールダイヤルを回すと、適正露出を維持したまま、絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更できます（プログラムシフト）。
プログラムシフトは、撮影した後でも解除されません。解除するには、ファインダ内の表示**Ps**が、**P**に変わるまでコントロールダイヤルを回します。または、カメラの電源を一度切ります。
フラッシュ使用時は、プログラムシフトはできません。

A：絞り優先撮影

絞り値を設定すると、カメラが適正なシャッター速度を自動的に設定するオート露出モードです。絞りを開く（絞り値の数値を小さくする）ほど、ピントの合う範囲（被写界深度）が狭くなり、背景のボケが強くなります。絞りを絞る（絞り値の数値を大きくする）ほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。背景のボケ具合は、プレビュー機能により確認することができます。

絞り値(F 値)を小さくしたとき

絞り値(F 値)を大きくしたとき

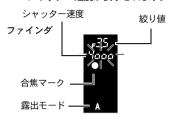
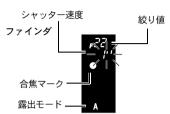
1 **モードダイヤルをAにします。**

2 **コントロールダイヤルを回して、絞り値を設定します。**

絞りを開きます（F 値を小さくする）

絞りを絞ります（F 値を大きくする）

3 シャッターボタンを半押しします。

- ピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- ファインダに、カメラが自動的に決定したシャッター速度が表示されます。

シャッター速度表示（高速側）が点滅しているときは、露出オーバー（過度）です。絞り込んで（絞り値を大きくして）ください。

シャッター速度表示（低速側）が点滅しているときは、露出アンダー（不足）です。絞りを開いて（絞り値を小さくして）ください。

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。

こんなときは

絞り値を変更したがシャッター速度の点滅が終わらない

→ 高速側でシャッター速度の表示が点滅している場合は、ISO 感度を下げるか、市販の ND フィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「明るさに合わせた設定－ ISO 感度」(P 74)

→ 低速側でシャッター速度の表示が点滅している場合は、ISO感度を上げてください。☞「明るさに合わせた設定－ ISO 感度」(P 74)

露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を 1/3EV・1/2EV・1EV ステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P 115)

設定した絞り値での被写界深度を確認したい

→ 「プレビュー機能」（P 39）をご参照ください。

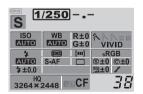
S：シャッター優先撮影

シャッター速度を設定すると、カメラが適正な絞り値を自動的に設定するオート露出モードです。シャッター速度を速くして動きの中の一瞬をとらえたり、シャッター速度を遅くして躍動感を表現することができます。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体でも止まっているように撮影されます。

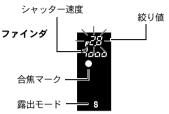
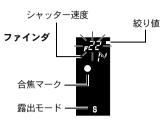
シャッター速度を遅くすると、動いているものはブレて撮影されます。このブレが躍動感や動きのある仕上がりになります。

1 モードダイヤルをSにします。

2 コントロールダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。

シャッター速度が遅くなります

シャッター速度が速くなります

3 シャッターボタンを半押しします。

- ピントを合わせます。ファインダに合焦マークが点灯します。
- ファインダに、カメラが自動的に決定した絞り値が表示されます。

絞り値が開放絞り（値がもっとも小さい）で点滅* しているときは、適正露出が得られていません（露出アンダー）。シャッター速度を遅くします。

絞り値が最小絞り（値がもっとも大きい）で点滅* しているときは、適正露出が得られていません（露出オーバー）。シャッター速度を速くします。

* 使用されるレンズ、および焦点距離により点滅時の絞り値は変わります。

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。

こんなときは

画像がブレる

→ 近接撮影や超望遠撮影では、画像がブレやすくなります。シャッター速度をより速く設定するか、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

シャッター速度を変更したが絞り値の点滅が終わらない

→ 最小絞り（値がもっとも大きい）で絞り値の表示が点滅している場合は、ISO 感度を下げるか、市販の ND フィルター（光量調節用）をご使用ください。☞「明るさに合わせた設定－ ISO 感度」(P 74)

→ 開放絞り（値がもっとも小さい）で絞り値の表示が点滅している場合は、ISO 感度を上げてください。☞「明るさに合わせた設定－ ISO 感度」(P 74)

露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を 1/3EV・1/2EV・1EV ステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P 115)

M：マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出との差は露出レベルインジケータで確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。また、天体撮影や打ち上げ花火の撮影などに便利なバルブ（bulb）撮影も可能です。

1 モードダイヤルをMにします。

2 コントロールダイヤルを回して設定します。

- **コントロールダイヤルのお買い上げ時の設定**
  シャッター速度：コントロールダイヤルを回して設定します。
  絞り値：露出補正ボタンを押しながら、コントロールダイヤルを回して設定します。
  カスタムメニューの［ダイヤル］設定により、コントロールダイヤルの機能を上記と逆の設定にすることができます。☞「コントロールダイヤルのカスタマイズ」(P 119)
- 絞りの設定範囲はレンズにより異なります。
- シャッター速度は 1/4000 ～ 60"（秒）および［bulb］（バルブ）に設定できます。
- ダイヤルを回すごとに、1/3EV ステップで絞り値とシャッター速度が変わります。カスタム設定によりステップを変更することもできます。

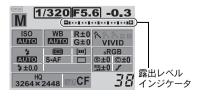
絞りを開きます(F 値を小さくする)

絞りを絞ります(F 値を大きくする)

シャッター速度が遅くなります

シャッター速度が速くなります

- スーパーコンパネに露出レベルインジケータが表示されます。設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が、-3EV～+3EVの範囲で表示されます。

露出レベルインジケータ

露出アンダー

露出オーバー

適正露出

3 シャッターボタンを押します。

画像のノイズについて

長秒時の撮影では、画面にノイズが多く発生したり、画面左上が明るく写る場合があります。これはCCDの温度上昇や、CCD内部の駆動回路が熱源となり、本来CCDに光のあたっていない部分にも電流を発生させてしまうためです。この現象は、高温の環境でISO感度を上げたり、30秒以上の長秒時の露出で顕著に現れます。ノイズリダクションを使うと、これらのノイズを軽減することができます。
☞「ノイズリダクション — 長秒時の画像のノイズを軽減する」(P 87)

バルブ（bulb）撮影について

→ シャッターボタンを押しているあいだ露光し続けるバルブ撮影（最長 8 分まで）が可能です。M モードでシャッター速度を［bulb］に設定します。また別売のリモコン（RM-1）を使うと、リモコンバルブ撮影ができます。
☞「リモコンによるバルブ撮影」(P 59)

こんなときは

画像がブレる

→ シャッター速度を遅くして撮影するときは、一脚や三脚のご使用をおすすめします。

露出の調整間隔を変更したい

→ メニューで調整間隔を 1/3EV・1/2EV・1EV ステップのいずれかに設定してください。☞「露出ステップ」(P 115)

プレビュー機能

（ワンタッチWB）ボタンを押すことで、設定されている絞り値まで絞りこみ、ピントの合っている範囲（被写界深度）をファインダで確認することができます。あらかじめボタンにプレビュー機能を割り当てておきます。

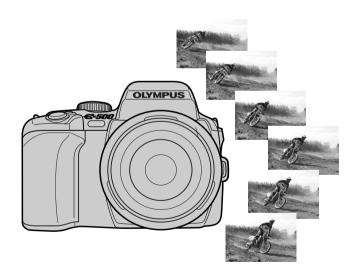
☞「ボタン機能」(P 120)

1 ボタンを押します。

注意

- プレビュー中は、測光値は変わりません。

4 いろいろな撮影機能

撮影テクニックを向上するには、フラッシュやドライブモード（連写）の活用も大きな鍵です。フラッシュモードを使い分けたり、フラッシュの発光量を調整すると、画像の仕上がりが違ってきます。
AUTO・ポートレート・夜景＆人物モード撮影などでは、暗いときや逆光のときに内蔵フラッシュが自動的にポップアップします。
連写では、露出やホワイトバランスなどを連続的に変化させて撮影することもできます（オートブラケット撮影）。シャッターボタンを押すごとに、何度も設定を変える必要はありません。

オートブラケット撮影

露出やホワイトバランスなどの設定値を補正した値でも撮影します。
最適の設定値を求めるのに便利です。
このカメラでは次のオートブラケット撮影ができます。

ブラケット撮影	内容	参照ページ
AEブラケット	露出を変化させて撮影できます。	P 75
WBブラケット*	ホワイトバランスを変化させて撮影できます。	P 84
MFブラケット	ピント位置を変化させて撮影できます。	P 66
フラッシュブラケット	フラッシュ発光量を変化させて撮影できます。	P 49

* WBブラケットは、他のブラケット撮影と同時に設定・撮影することができます。

フラッシュ撮影

フラッシュモード

発光パターンや発光タイミングなど、目的に合わせたフラッシュモードを設定します。設定可能なフラッシュモードは、露出モードによって異なります。フラッシュモードは専用フラッシュ（別売）にも適応します。
モードダイヤルをAUTOにセットすれば、暗いときには自動的にポップアップします。

オート発光　AUTO

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFフレームを合わせて撮影してください。

赤目軽減発光

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、赤目軽減発光に設定すると本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合など個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

スローシンクロ/赤目軽減発光（先幕シンクロ）　SLOW

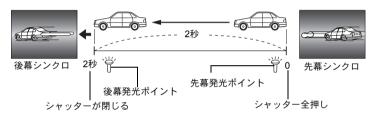
遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると、被写体と背景の両方を写し込むことができます。また赤目軽減効果も得られます。シャッター速度が遅いので、背景がブレないように三脚などでカメラを固定してください。

先幕シンクロについて

フラッシュは、通常はシャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行われます。

スローシンクロ/赤目軽減発光（後幕シンクロ）　SLOW2

シャッターが閉じる直前にフラッシュを光らせるモードです。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。シャッター速度の最長は、撮影モードにより異なります。

シャッター速度が2秒のとき

強制発光

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

注意

- フラッシュ発光時、シャッター速度は1/180より低速に設定されます。背景の明るい被写体では、強制発光すると背景が露出オーバーになることがあります。このような場合は、専用フラッシュ FL-50やFL-36を使用して、スーパー FP発光モードで撮影してください。

発光禁止 ⓕ

フラッシュは発光しません。
発光禁止では、内蔵フラッシュをポップアップすればAFイルミネータとして使うことができます。☞「AFイルミネータ」(P 67)

フラッシュ同調速度

内蔵フラッシュ発光時のシャッター速度を変更することができます。☞「同調速度設定」(P 118)

マニュアル発光

内蔵フラッシュを固定した発光量で発光させることができます。メニューの［内蔵フラッシュ拡張］（☞ P 117）をONに設定すると、フラッシュモードの選択項目に発光比の選択が加わります。
フラッシュをマニュアル発光させるときは、被写体までの距離に基づいてレンズのF値を合わせて撮影してください。

発光比	GN：**ガイドナンバー**	
	内蔵フラッシュの場合	**専用フラッシュ F-36（別売）の場合**
FULL(1/1)	13	36
1/4	6	18
1/16	3	9
1/64	1.5	4.5

レンズのF値は以下の式で計算してください。

$$\text{絞り（F値）} = \frac{\text{GN} \times \text{ISO感度係数}}{\text{撮影距離（m）}}$$

ISO 感度係数

ISO 感度	100	200	400	800	1600
補正係数	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0

露出モードによる使用可能なフラッシュモード

<table>
<tr><th>露出モード</th><th>スーパーコンパネまたはメニューの表示</th><th>フラッシュモード</th><th>発光タイミング</th><th>発光許可条件</th><th>シャッター速度制限条件</th></tr>
<tr><td rowspan="11">P
A
*2</td><td>AUTO</td><td>オート発光</td><td rowspan="3">先幕シンクロ</td><td rowspan="2">暗いとき、逆光 *1のとき発光</td><td rowspan="2">1/30秒～1/180秒</td></tr>
<tr><td>[赤目軽減]</td><td>オート発光(赤目軽減)</td></tr>
<tr><td>[強制発光]</td><td>強制発光</td><td>いつでも発光</td><td>60秒~1/180秒</td></tr>
<tr><td>[発光禁止]</td><td>発光禁止</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>[赤目軽減] SLOW</td><td>スローシンクロ(赤目軽減)</td><td rowspan="2">先幕シンクロ</td><td rowspan="7">暗いとき、逆光 *1のとき発光</td><td rowspan="9">60秒~1/180秒</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] SLOW</td><td>スローシンクロ(先幕シンクロ)</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] SLOW2</td><td>スローシンクロ(後幕シンクロ)</td><td>後幕シンクロ</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] FULL</td><td>マニュアル発光(FULL)</td><td>先幕シンクロ</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] 1/4</td><td>マニュアル発光(1/4)</td><td rowspan="5">先幕シンクロ</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] 1/16</td><td>マニュアル発光(1/16)</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] 1/64</td><td>マニュアル発光(1/64)</td></tr>
<tr><td rowspan="8">S
M</td><td>[強制発光]</td><td>強制発光</td><td rowspan="2">いつでも発光</td></tr>
<tr><td>[赤目軽減強制発光]</td><td>強制発光(赤目軽減)</td></tr>
<tr><td>[発光禁止]</td><td>発光禁止</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] SLOW2</td><td>強制発光/スローシンクロ(後幕シンクロ)</td><td>後幕シンクロ</td><td rowspan="5">いつでも発光</td><td rowspan="5">60秒~1/180秒</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] FULL</td><td>マニュアル発光(FULL)</td><td rowspan="4">先幕シンクロ</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] 1/4</td><td>マニュアル発光(1/4)</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] 1/16</td><td>マニュアル発光(1/16)</td></tr>
<tr><td>[フラッシュ] 1/64</td><td>マニュアル発光(1/64)</td></tr>
</table>

*1 専用フラッシュがスーパー FP モードに設定されているとき、逆光を判定して発光します。☞「スーパー FP 発光について」(P 52)
*2 夜景＆人物モードでは、AUTO、[赤目軽減]、[強制発光]、[発光禁止] は、設定できません。

フラッシュモードを設定する

1 OK ▶ フラッシュモード表示 ▶ OK

2 コントロールダイヤルで設定します

P・A・・・・ ・モードのとき:

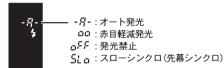
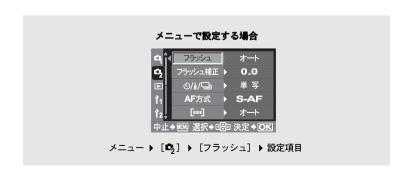
AUTO / / / / SLOW / SLOW / SLOW2

S・M モードのとき:

** / / / SLOW2**

3 OKボタンを押します。

ファインダ

4 いろいろな撮影機能

内蔵フラッシュを使う

14mm（35mmフィルムカメラ換算28mm）より広角のレンズを使用した場合、フラッシュの光がけられる場合があります。また使用レンズ、距離などの撮影条件によっても発生する場合があります。

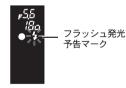
1 パワースイッチをONにし、⚡（フラッシュ）スイッチを押して内蔵フラッシュを起こします。

次のモードでは、内蔵フラッシュは暗いときや逆光のときには自動的にポップアップして、発光します。

AUTO / [portrait] / [macro] / [night portrait] / [scene] / [scene] / [scene] / [scene] / [scene]

2 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光するときは、⚡（フラッシュ発光予告）マークが点灯します。点滅しているときは充電中です。点滅が止まるまでお待ちください。

3 シャッターボタンを全押しします。

フラッシュの発光量補正

フラッシュの発光量を調整します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を補正した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗の差）を意図的につけたいときにも有効です。

1 **MENU ▶ ［撮影2］ ▶ ［フラッシュ補正］**

2 **で補正量を設定します。**

3 **OKボタンを押します。**

こんなときは

フラッシュ補正画面をすぐに呼び出したい

→ （フラッシュ）スイッチと （露出補正）ボタンを同時に押し続けると、フラッシュ補正画面が表示されます。コントロールダイヤルで設定してください。

注意

- 専用フラッシュの調光モードがMANUALのときは、この設定は働きません。
- 専用フラッシュで発光量補正されていると、カメラの発光補正量に加算されて働きます。
- フラッシュの発光量は露出補正に連動します。メニューの［+連動］が［ON］に設定されているとき、発光量補正に適用されます。

フラッシュブラケット撮影

1コマごとにフラッシュの発光量を変えて撮影します。

1 **MENU ▸ ［📷2］ ▸ ［FL BKT］**

2 **で設定します。**

［OFF］/［3F 0.3EV］/［3F 0.7EV］/［3F 1.0EV］

- カスタム設定により補正量を変更できます。
☞「露出ステップ」(P 115)

3 **OKを押します。**

- 連写モードでは、1 度のシャッターボタンの全押しで3コマを連続して、発光量適正〜ー発光〜＋発光の順に撮影します。単写モードでは、シャッターボタンを押すたびに上記のように撮影します。

専用フラッシュ（別売）について

このカメラでは、内蔵フラッシュの他に別売の専用フラッシュを使用して目的に応じたいろいろなフラッシュ撮影が行えます。
カメラとの通信機能があり、TTL AUTO、スーパー FP発光など多彩な調光モードで、このカメラのフラッシュモードを使うことができます。当社専用フラッシュは、カメラのホットシューに取り付けて使用します。
専用フラッシュの取扱説明書も合わせてお読みください。

専用フラッシュの機能比較

専用フラッシュ	FL-50	FL-36	FL-20	RF-11	TF-22
調光モード	TTL AUTO・AUTO・MANUAL・FP TTL AUTO・FP MANUAL		TTL AUTO・AUTO・MANUAL	TTL AUTO・MANUAL	
GN（ガイドナンバー）（ISO100時）	GN50（85mm*時）GN28（24mm*時）	GN36（85mm*時）GN26（24mm*時）	GN20（35mm*時）	GN11	GN22

* 35mmフィルム換算カメラ

注意

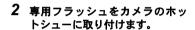
- 専用フラッシュは内蔵フラッシュとの併用はできません。
- 専用フラッシュ FL-40は使用できません。

専用フラッシュを使った撮影

フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

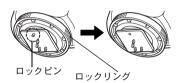
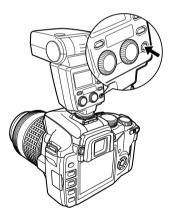
1 ホットシューカバーを図の矢印の向きにスライドさせて外します。

- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用フラッシュを取り外した後は再度はめ込んでください。

2 専用フラッシュをカメラのホットシューに取り付けます。

- フラッシュのロックピンが出ている場合は、フラッシュのロックリングを回して、あらかじめ引込めておいてください。

3 フラッシュの電源を入れます。

- フラッシュの充電ランプが点灯したら充電完了です。
- フラッシュの同調速度は 1/180 秒以下です。

4 フラッシュモードを選択します。

5 **フラッシュの調光モードを選択します。**

- 通常はTTL-AUTOの使用をおすすめします。

6 **シャッターボタンを半押しします。**

- カメラ・フラッシュ間で、ISO 感度・絞り・シャッター速度などの撮影情報の通信が行われます。
- ファインダ内で⚡が表示されます。

7 **シャッターボタンを全押しします。**

ファインダ

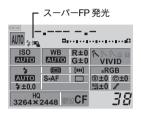
⚡点滅：
フラッシュ
充電中

⚡点灯：
フラッシュ
充電完了

注意

- TTL AUTOで撮影する際は、本発光前に調光のためのプリ発光があります。
- TTL AUTOで撮影する場合、ISO感度400以上で被写体が遠い場合は、調光の精度が悪くなります。

スーパー FP 発光について

専用フラッシュ FL-50やFL-36ではスーパー FP発光が可能です。スーパー FP発光は通常の発光に比べ、長時間発光を続けます。したがって、通常の発光では使用できない高速のシャッター速度でも撮影できます。
屋外のポートレート撮影など開放絞りで日中シンクロ撮影が行えます。詳しくは専用フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

市販のフラッシュを使った撮影

専用フラッシュ以外の市販のフラッシュはカメラの露出モードを M にして使用します。使用できる市販のフラッシュの詳細についてはP 53をご覧ください。

1 **ホットシューカバーを取り外し、フラッシュをカメラに接続します。**

2 **露出モードを M にし、絞り値とシャッター速度を設定します。**

- シャッター速度は 1/180 秒より低速に設定してください。これより早いシャッター速度ではフラッシュは同調しません。
- シャッター速度を遅く設定すると、画像がブレる可能性があります。

3 **フラッシュの電源を入れます。**

- 電源は、必ずフラッシュをカメラに取り付けてから入れてください。

4 **フラッシュ側の調光の設定に適したISO感度と絞り値にします。**

- フラッシュ側の調光モードの設定方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意

- フラッシュは常に発光します。フラッシュを光らせたくないときは、フラッシュの電源を切ってください。
- ご使用になるフラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認ください。
- カメラ側の設定により、フラッシュの自動ポップアップで内蔵フラッシュと市販のフラッシュが接触する可能性がありますので、ご注意ください。
- カスタム設定により、フラッシュが自動ポップアップしないように設定することができます。☞「自動ポップアップ」(P 118)

使用できる市販のフラッシュについて

1) フラッシュ使用時の露出は、フラッシュ側で調整する必要があります。フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
2) フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合はフラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください（カメラ側の露出補正はフラッシュ撮影においては無効となります）。
3) レンズの焦点距離に合った照射角のフラッシュをお使いください。レンズの焦点距離に約2倍した数字が35mmフィルムでのレンズの焦点距離になります。
4) 専用フラッシュ以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。

単写／連写

j

単写 □　一度のシャッターボタンの全押しで、1コマだけ撮影されます（通常の撮影モード、1コマ撮影）。

連写　シャッターボタンを押している間、約2.5コマ/秒で約4枚以上（SHQ・HQ・SQ）連続撮影します。ピント、露出は、最初の1コマで固定されます。

1 （リモコン/セルフタイマー/連写）ボタンを押します。

2 コントロールダイヤルで設定します。

□　**単写**

　連写

3 撮影します。

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。

ファインダ

スーパーコンパネで設定する場合

▶ ドライブモード表示 ▶

メニューで設定する場合

MENU ▶［$_2$］▶［］▶ **設定項目**

注意

- ［ノイズリダクション］（☞ P 87）が［ON］の場合、連写はできません。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

4 いろいろな撮影機能

セルフタイマー撮影

シャッターボタンを押してから、12秒後にシャッターが切れるセルフタイマーと、2秒後にシャッターが切れるセルフタイマーがあります。セルフタイマー撮影の際は、カメラを三脚にしっかりと固定してください。

セルフタイマーを設定する

1 **（リモコン / セルフタイマー / 連写）ボタンを押します。**

2 **コントロールダイヤルで設定します。**

12S　12秒セルフタイマー
2S　2秒セルフタイマー

ファインダ

12SELF ：12 秒セルフタイマー
2SELF ：2 秒セルフタイマー

スーパーコンパネで設定する場合

▶ ドライブモード表示 ▶

メニューで設定する場合

MENU ▶［ ］▶［ ］▶ 設定項目

セルフタイマー撮影をする

1 シャッターボタンを全押しします。

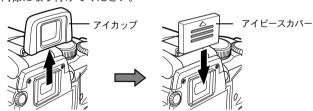
- 撮影されます。
- ピントと露出は、シャッターボタンを半押しした時点で固定されます。
- **12Sの場合**：セルフタイマランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
  2Sの場合：セルフタイマランプが約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- 作動中のセルフタイマーを中止するには、ボタンを押します。

注意

- カメラの前でシャッターボタンを押さないでください。ピント合わせはシャッターボタンを半押ししたときに行われるので、カメラの前に立ってシャッターボタンを押すとピントがぼける原因になります。

アイピースカバー

ファインダから顔を離して撮影するとき、ファインダに光が入らないように、アイピースカバーをファインダに取り付けます。アイカップを図のように外してからアイピースカバーを取り付けてください。別売のアイカップに交換するときも同様に取り付けてください。

4 いろいろな撮影機能

リモコン撮影

別売のリモコン（RM-1）を使って撮影します。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。リモコンのシャッターボタンを押して、すぐにシャッターが切れるモードと2秒後にシャッターの切れるモード（2秒タイマー）の2つがあります。またリモコンバルブ撮影も可能です。

リモコンを設定する

1 （リモコン/セルフタイマー/連写）ボタンを押します。

2 コントロールダイヤルで設定します。

0S	すぐにシャッターが切れます。
2S	2秒後に切れます。

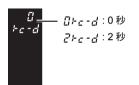
ファインダ

スーパーコンパネで設定する場合

メニューで設定する場合

MENU ▶ [ ] ▶ [ ] ▶ 設定項目

4

いろいろな撮影機能

リモコン撮影をする

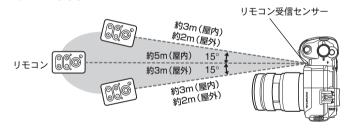
1 カメラを三脚などでしっかりと固定します。

2 リモコンをカメラのリモコン受信センサーに向け、リモコンのシャッターボタンを押します。

- **0Sの場合**：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅して、シャッターが切れます。

  2Sの場合：ピントと露出が固定され、カメラのリモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

リモコンの有効範囲

リモコンは、有効範囲の中でカメラに向けて使ってください。
リモコン受信窓に太陽などの強い光があたっていたり、蛍光灯やネオンランプが近くにあるときは、リモコンの有効範囲が狭くなり、受信しにくくなることがあります。

こんなときは

リモコンのシャッターボタンを押してもリモコンランプが点滅しない

→ リモコン受光部に強い光があたっているので、リモコン信号が届いていません。カメラに近付いて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。
→ カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。
→ リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンモードを解除したい

→ リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。メニューで他のドライブモードにしてください。

カメラのシャッターボタンを使って撮影したい

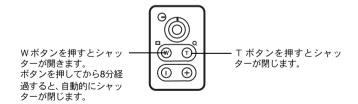
→ リモコンモードでも、カメラのシャッターボタンを押すと、シャッターを切ることができます。

注意

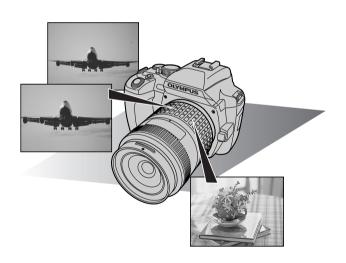
- ピントが合わないときは、シャッターが切れません。
- 明るいときは、リモコンランプの点滅が見えにくくなり、撮影されたのかどうか確認できないことがあります。
- リモコンを使ってのズーム操作はできません。

リモコンによるバルブ撮影

モードダイヤルを**M**にセットし、シャッター速度を［bulb］に設定します。

4 いろいろな撮影機能

5 ピント合わせの機能

このカメラはオートフォーカスでピント合わせができます。しかもAFフレーム選択、C-AFなど多彩なモードを選べ、あらゆる被写体に確実にピントを合わせられます。もちろんマニュアルでのピント合わせも可能です。ピント合わせは写真の基本です。これらの機能をマスターしてさまざまなシーンを記録してください。

AF フレームの選択

通常はファインダ内の3ケ所のAFフレームで被写体までの距離を測定し、最適なポイントを選択します。1つのAFフレームだけを選択することもできます。

[･･･]（オート）
: 3つのAFフレームを使ってピントを合わせます。

[･] 左の AF フレームを使ってピントを合わせます。

[･] 中央の AF フレームを使ってピントを合わせます。

[･] 右の AF フレームを使ってピントを合わせます。

1 [･･･]（AFフレーム選択）ボタンを押します。

2 コントロールダイヤルで設定します。

[･･･] / [･] / [･] / [･]

3 撮影します。

スーパーコンパネで設定する場合

OK ▶ AFフレーム表示 ▶ OK

メニューで設定する場合

MENU ▶［ 2］▶［[･･･]］▶設定項目

5 ピント合わせの機能

フォーカスモード AF

フォーカスモードには、S-AF（シングルAF）・C-AF（コンティニュアスAF）・MF（マニュアルフォーカス）があります。

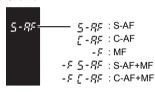
1 AF（フォーカスモード）ボタンを押します。

2 コントロールダイヤルで設定します。

S-AF / C-AF / MF/ S-AF+MF / C-AF+MF

☞「S-AF（シングルAF）モードでの撮影」（P 63）
「S-AF モードと MF モードの併用（S-AF+MF）」（P 63）
「C-AF（コンティニュアスAF）モードでの撮影」（P 64）
☞「C-AF モードと MF モードの併用（C-AF+MF）」(P 64）
「マニュアルフォーカス（MF）」（P 65）

AFボタン

ファインダ

スーパーコンパネで設定する場合

OK ▶ フォーカスモード表示 ▶ OK

メニューで設定する場合

MENU ▶［2］▶［AF方式］▶ 設定項目

S-AF（シングル AF）モードでの撮影

シャッターボタンを半押ししたときに1回のピント合わせ動作をします。
ピントがうまく合わなかったときは、シャッターボタンを離してもう一度半押ししてください。静物や動きの激しくない被写体を撮影するのに適しています。

1 シャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定され、ファインダ内の合焦マークが点灯します。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。

2 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。

S-AF モードと MF モードの併用（S-AF+MF）

S-AFモードでAFした後に、フォーカスリングを回してマニュアル操作でピントを微調整できます。

1 シャッターボタンを半押ししてAFします。

- ピントが合うと合焦マークが点灯します。

2 シャッターボタンを半押ししたままで、フォーカスリングを使って、ピントの微調整をします。

3 撮影します。

注意

- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押しなおすと、AFが作動し、微調整はキャンセルされます。

5 ピント合わせの機能

C-AF（コンティニュアス AF）モードでの撮影

シャッターボタンを半押ししている間、ピント合わせの動作を繰り返します。被写体が動いている場合は、予測してピントを合わせます（動体予測）。撮影距離が絶えず変化する被写体の撮影に適しています。

1 シャッターボタンを半押しし続けます。

- 被写体にピントが合い、固定されると、ファインダに合焦マークが点灯します。
- ピントが合っても AF フレームは点灯しません。
- カメラはピント合わせの動作を繰り返し、被写体が移動したり構図を変えても、ピントを追います。
- ピピッと、ピントが合ったことを知らせる音がします。3回目のAFからは、ピントが合っても音はしません。

ファインダ

2 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを全押しします。

C-AF モードと MF モードの併用（C-AF+MF）

C-AFモードでAFした後に、フォーカスリングを回してマニュアル操作でピントを微調整できます。

1 シャッターボタンを半押ししてAFします。

2 フォーカスリングを使って、ピントの微調整をします。

3 撮影します。

こんなときには

C-AF モードでも手動でピントの微調整をしたい

→ カスタムメニューの **AEL/AFL** モード設定で、**C-AF** モードを **mode3** または **mode4** に設定してください。☞「AEL/AFL モード」(P 113)

注意

- フォーカスリングで微調整した後でシャッターボタンを押しなおすと、AFが作動し、微調整はキャンセルされます。

マニュアルフォーカス（MF）

ファインダをのぞきながら任意の位置に手動でピント合わせをすることができます。

1 **フォーカスリングを使って、ピントを合わせます。**

2 **撮影します。**

フォーカスリングの回転方向

フォーカスリングの回転方向を選択し、ピントの移動方向を切り替えることができます。☞「フォーカスリング」(P 121)

フォーカスエイド

フォーカスリングを回してピントが合うと、合焦マークが点灯します。3点のAFフレームを選択している場合は、中央のAFフレームでのピントが選択されます。

MF ブラケット撮影

1コマごとにピント位置を少しずつ変えて撮影します。
カードには、設定したピント位置、後側、前側にずらした位置の順で連続撮影した画像が記録されます。

1 **MENU ▶ ［2］ ▶ ［MF BKT］**

2 **で設定します。**

［OFF］/［5F 1STEP］/［5F 2STEP］/［7F 1STEP］/［7F 2 STEP］

補正ステップ 1STEP・2STEP

撮影枚数 設定したピントの前側にずらした位置で2枚、および後側にずらした位置で2枚……合計5枚
設定したピントの前側にずらした位置で3枚、および後側にずらした位置で3枚……合計7枚

3 **ボタンを押します。**

4 **MFでピント合わせをし、撮影します。**

- 連写モードでは、一度のシャッターボタンの全押しで、設定したピント位置、後側、前側にずらした位置の順で1コマずつ連続撮影します。単写モードでは、シャッターボタンを押すたびに同様に撮影します。
- 使用されるレンズ、撮影条件により、設定したピント位置に対し前後同じ枚数ではないことがあります。
- 被写体が画面中央にないとき、コントラストが弱いときなどは、前後枚数が片側に偏ることがあります。
- この機能を使用する際には、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

AFイルミネータ

内蔵フラッシュはAFイルミネータとして機能させることができ、AFではピントの合わせにくい暗いところでもピントが合います。

1 **MENU ▶［🔧1］▶［AFイルミネータ］**

2 **ⓢで［ON］か［OFF］を選択します。**

3 **Ⓞボタンを押します。**

レリーズ優先

このカメラはAF作動中・フラッシュ充電中はシャッターが切れませんが、次の設定により、これらの完了を待たずに、シャッターを切ることができます。シャッターチャンスを優先する撮影に適しています。S-AFモード（☞ P 63）とC-AFモード（☞ P 64）で個別にレリーズ優先を設定できます。［レリーズ優先C］が［ON］に設定されていると、動体予測は働きません。

1 **選択しているフォーカスモードによって、次の手順を行ってください。**

S-AFモード

MENU ▶［🔧1］▶［レリーズ優先S］

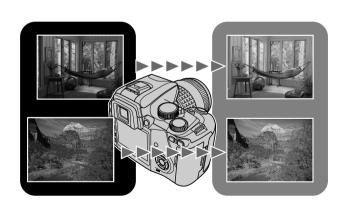
C-AFモード

MENU ▶［🔧1］▶［レリーズ優先C］

2 **ⓢで［ON］か［OFF］を選択します。**

3 **Ⓞボタンを押します。**

6 露出・色・画像

シャッターボタンを押すだけのオート撮影から一歩進んでみましょう。
個性的な写真を目指して、画像・明るさ・露出に関する調整に挑戦してみましょう。これらの設定をどう組み合わせていくかで、画像の仕上がりに差が出ます。たとえば、室内で雰囲気をいかした撮影をしたい場合や、フラッシュを使うと光が反射する被写体の場合、やむを得ずフラッシュなしで撮影して、ブレのある画像になってしまった— こんなことはよくあります。
ISO感度を高感度に設定することで、ブレのない画像が撮れるのです。よりきれいに撮りたいときは小さな数値に、明るさの足りないところは大きな数値に、といった使い分けができるのです。
写真の雰囲気を変えたいときは、露出補正をします。日陰の緑や山の紅葉など明るさを抑えて撮影したいときは、マイナス補正してください。色づく紅葉の鮮やかな色彩が色濃く写し出され、見た目どおりのきれいな色を引き出すことができます。

測光方式を変える－測光モード

このカメラはデジタルESP測光、中央重点平均測光、スポット測光など5つの測光方式を備えています。撮影するシーンに応じて選択してください。

1 **（測光）ボタンを押します。**

2 **コントロールダイヤルで設定します。**

/ / / HI / SH

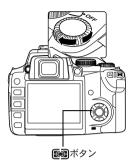
ファインダ

ESP ：デジタル ESP 測光
：中央重点平均測光
：スポット測光
HI ：スポット測光 ハイライトコントロール
SH ：スポット測光 シャドウコントロール

スーパーコンパネで設定する場合

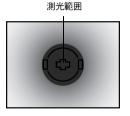
▶ 測光モード表示 ▶

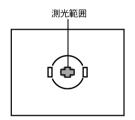
メニューで設定する場合

MENU ▶ ［ ］ ▶ ［測光］ ▶ 設定項目

デジタル ESP 測光

画面を49分割測光し、それぞれの輝度、輝度差などを考慮して露出を演算します。被写体が逆光下にあったり、強いスポット光を浴びているなど、中央と周辺に大きな輝度差があるときにも適正な測光ができます。通常はこのモードをおすすめします。

中央重点平均測光

画面の中央部に重点を置いて、画面全域を平均測光します。周辺部の輝度を露出に影響させたくないときに使います。

スポット測光

画面中央の狭い範囲を測光します。デジタルESP測光で補正しきれないような強い逆光シーンなどに適しています。

HI　スポット測光ハイライトコントロール

背景が全体に明るいときは、通常のAUTOによる露出では白い被写体がグレー調に写ります。このモードでは露出がオーバー側にシフトするため白いものを白く写すことができます。
測光範囲はスポット測光と同じです。

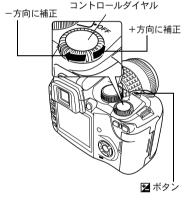
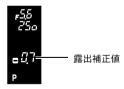
SH　スポット測光シャドウコントロール

背景が全体に暗いときは、通常のAUTOによる露出では黒い被写体がグレー調に写ります。このモードでは露出がアンダー側にシフトするため黒いものを黒く写すことができます。
測光範囲はスポット測光と同じです。

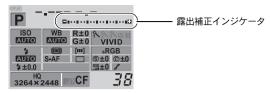
画像の明るさを変える—露出補正

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く映ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に－に補正すると効果的です。露出は±5.0EVの範囲で補正できます。露出補正をするときは、中央重点平均測光（[◎]）かスポット測光（[●]）でお使いください。

1 **（露出補正）ボタンを押しながら、コントロールダイヤルで補正値を設定します。**

- ＋方向に補正：+ 5.0EVまで設定できます。
  －方向に補正：- 5.0EVまで設定できます。
- 補正ステップは　1/3EV、1/2EV、1EVから選択できます。
  ☞「露出ステップ」(P 115)
- ボタンを押さずに、コントロールダイヤルだけで、露出補正ができるように設定することもできます。☞「コントロールダイヤルのカスタマイズ」(P 119)

6
露出・色・画像

露出補正インジケータの見方

スーパーコンパネ

1/3EVステップを選択したときの
露出補正インジケータ

1/2EVステップを選択したときの
露出補正インジケータ

- 補正範囲が露出補正インジケータをオーバーしているときは、◀ や ▶ が赤になります。
- 露出補正が0の場合は、露出補正インジケータは消えます。

メニューで設定する場合

MENU ▶ ［ 1 ］ ▶ ［露出補正］▶露出補正インジケータ

注意

- 露出補正は、**M**、SCENEでは働きません。

あらかじめ露出を固定する－ AE ロック　AEL

AEL ボタンを使用すると、測光して検出した露出値を固定（AEロック）できます。露出を撮影する構図とは別に決めたいときに使います。
通常は、シャッターボタンの半押しでAF（ピント）とAE（露出値）の両方が固定されますが、**AEL** ボタンを押して露出のみ固定することができます。

1 測光したい被写体にカメラを向けます。

2 AEL（AEロック）ボタンを押し続けます。

- 露出値が固定されます。
- ファインダに AEL が表示されます。

ファインダ

3 構図を決めて、AELボタンを押したままシャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定されます。

4 シャッターボタンを全押しします。

- **AEL** ボタンをはなすと、AEロックが解除されます。
- カスタム設定により、**AEL** ボタンから指をはなしても、AEロックが解除されないように設定することもできます ☞「AEL/AFLモード」(P 113)。

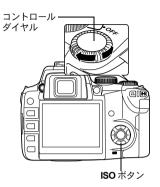
明るさに合わせた設定－ ISO 感度

ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところでの撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ画像が粗くなります。

1 **ISOボタンを押します。**

2 **コントロールダイヤルで ISO 感度を設定します。**

スーパーコンパネで設定する場合

ISO感度表示

メニューで設定する場合

MENU ▶ ［ 1］ ▶ ［ISO感度］ ▶ 設定項目

注意

- ISO感度がオートに設定されているとき、通常はISO100ですが、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。

6

露出・色・画像

AE ブラケット撮影

1コマごとに自動的に露出を変えて撮影します。露出をどの程度変化させるか（露出量と補正ステップ）を設定できるので、逆光や夕景などの適性露出を得にくい条件や露出補正量に迷ったときでも、気に入った一枚を残すことができます。適正～－補正～＋補正の順に撮影されます。

例）
BKT設定が
［3F 1.0EV］
の場合

-1.0EV

± 0

+1.0EV

補正量　：0.3・0.7・1.0
　露出補正量は、露出ステップを変更していると変わります。露出ステップはメニューで変更可能です。露出補正量は±1.0までです。
　☞「露出ステップ」(P 115)
撮影枚数：3枚

1 メニュー ▶ ［📷2］ ▶ ［AE BKT］

2 ⊕で設定します。
［OFF］/［3F 0.3EV］/［3F 0.7EV］/［3F 1.0EV］

3 ⓞボタンを押します。

AE BKT
OFF
3F 0.3EV
3F 0.7EV
3F 1.0EV
中止➜MENU　選択➜⇕　決定➜OK

4 撮影します。

単写の場合
シャッターボタンを全押しするごとに、1枚ずつ露出を変えて撮影します。
• ファインダ内に次の撮影の設定が表示されます。

連写の場合
設定した撮影枚数を撮り終えるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。自動的に露出を変えて撮影します。
• シャッターボタンから指をはなせば、ブラケット撮影を一時中断できます。

ファインダ

6
露出・色・画像

露出モードによる補正の方法

設定している露出モードによって、AEブラケット撮影で補正される方法が異なります。

AUTOモード	：絞り値とシャッター速度
Pモード	：絞り値とシャッター速度
Aモード	：シャッター速度
Sモード	：絞り値
Mモード	：シャッター速度

こんなときは

補正した露出を中心に AE ブラケット撮影をしたい

→ 露出補正値を設定した状態で、AE ブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心として AE ブラケット撮影が行われます。

注意

- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。

画像の色合いを調整する－ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているときと、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。
デジタルカメラでは、デジタル演算処理により白が白らしくなるように調節します。この機構をホワイトバランスといいます。ホワイトバランスには、4つの設定があります。

オートホワイトバランス

自動的に画像の白い部分を判断して全体の色のバランスを調節します。
通常はこのモードをお使いください。ただし、画面に白に近い色がまったくない場合は、ホワイトバランスが正しく設定されないことがあります。このようなときは、プリセットホワイトバランスやワンタッチホワイトバランスを設定してください。

プリセットホワイトバランス

天気、電球・蛍光灯別に7種類の色温度がプリセットされています。夕焼けをより赤く撮りたいときや暖かみのある電球色を表現したいときなどにはプリセットホワイトバランスで撮影してください。さらにプリセットホワイトバランスを積極的に使うことで、様々な色調を楽しむこともできます。

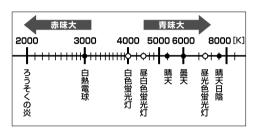
カスタムホワイトバランス

プリセットホワイトバランスの値の1つを、あらかじめ設定したい色温度に変更して使用することができます。
☞「カスタムホワイトバランスの設定」(P 81)

ワンタッチホワイトバランス

カメラを白紙などの白い物に向けて、ホワイトバランスを設定します。設定されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスの値の1つとしてカメラに記憶されます。
☞「ワンタッチホワイトバランスの設定 ⊡」(P 82)

色温度について

物質は温度が高くなるとしだいに光り始め、その光は温度が高くなるにしたがい赤みを帯びた光色から青みを帯びた光色に変化します。このように光の色を絶対温度：K（ケルビン）で表したものを色温度と呼びます。太陽などの自然光源、電球などの人工光源の光色は色温度で表すことができます。
これに対して、蛍光灯など色温度で表すことが不適当な人工光源があります。これらの光色は色温度による色味からは、ずれた色味をしています。この色味のずれ量が小さければ色温度換算することがあり、これを相関色温度といいます。
このカメラのプリセット値4000Kと4500K、6600Kは相関色温度です。厳密な意味での色温度ではありません。蛍光灯下での撮影のときにお使いください。

こんなときは

フラッシュを使うとき

→ フラッシュを使って撮影するときは、オートホワイトバランスで撮影することをおすすめします。
プリセットホワイトバランスで撮影するときは、6000K に設定してください。また、フラッシュを使った撮影では、条件によって色温度が変わります。撮影したら再生して色味を確認してください。

注意

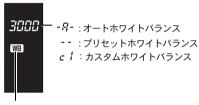
- 各光源として設定された色温度は目安です（実際の晴天が5300K、蛍光灯が4000K にしかならないということではありません）。

オート / プリセットホワイトバランスの設定　WB

ホワイトバランスを光源の色温度で選択します。

1 WB（ホワイトバランス）ボタンを押します。

2 コントロールダイヤルで設定します。

AUTO / ☼ / ☁ / ⌂ / 💡 / 蛍1 / 蛍2 / 蛍3 / ⊡ / CWB

WB モード	適した撮影シーン
AUTO	一般的なほとんどの撮影シーン（画面内に白に近い色が存在する撮影シーン）。通常はこのモードをお使いください。
☼ 5300K	晴天の日に屋外で撮るとき、夕焼けを赤く撮るとき、花火を撮るとき
☁ 6000K	曇天の日に屋外で撮るとき（フラッシュを使用して撮るとき）
⌂ 7500K	晴天の日に屋外の日陰で撮るとき
💡 3000K	電球に照らされている被写体を撮るとき
蛍1 4000K	白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍2 4500K	昼白色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
蛍3 6600K	昼光色蛍光灯に照らされている被写体を撮るとき
⊡	ワンタッチホワイトバランスで設定した色温度。 ☞「ワンタッチホワイトバランスの設定 ⊡」(P 82)
CWB	カスタムホワイトバランスで設定した色温度。未設定時は3000Kに設定されています。設定により表示は変わります。

スーパーコンパネで設定する場合

Ⓞ ▶ ◌ WB表示 ▶ Ⓞ

メニューで設定する場合

MENU ▶ ［ 1 ］ ▶ ［WBモード］ ▶ 設定項目

こんなときは

白くないものまで白くなった

→ オートホワイトバランスでは、画面に白に近い色がまったくない場合は、正しいホワイトバランスが測定されないことがあります。プリセットホワイトバランスかワンタッチホワイトバランスを試してください。

カスタムホワイトバランスの設定

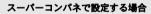
1 **WB（ホワイトバランス）ボタンを押します。**

2 **コントロールダイヤルでカスタムホワイトバランスを選びます。**

3 **（露出補正）ボタンを押しながら、選択したい設定が表示されるまでコントロールダイヤルを回します。**

- 2000K～14000Kまで設定できます。

スーパーコンパネで設定する場合

OK ▶ CWB表示 ▶ OK

メニューで設定する場合

MENU ▶［1］▶［WBモード］▶CWB

ワンタッチホワイトバランスの設定

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白い紙などにカメラを向けてホワイトバランスを測定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。
自然光だけでなく、複数の異なる色温度の光源に照らされた被写体の撮影などに有効です。

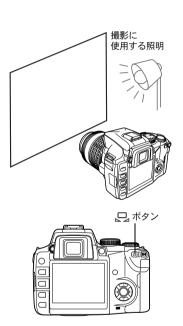
1 カメラを白い紙に向けます。

- 紙はファインダいっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。

2 （ワンタッチ WB）ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

- ワンタッチホワイトバランス画面が表示されます。

3 Ⓞボタンを押します。

- ホワイトバランスが登録されます。
- 登録されたホワイトバランスは、プリセットホワイトバランスのひとつとして、カメラに記憶されます。電源を切っても消去されません。

こんなときは

シャッターボタンを押したら、［不適切なデータです 撮り直してください］と表示された

→ 白い部分の面積が足りないとき、明るすぎるとき、暗すぎるとき、極端な色味がついているときは、ホワイトバランスは登録できません。絞り、シャッタースピードなどの撮影条件を変えて、再度、手順1からやり直してください。

WB 補正

オートホワイトバランス、プリセットホワイトバランスそれぞれに、補正値を設定して微調整できます。

1 **MENU ▶ ［📷1］ ▶ ［WBモード］**

2 **で WB 補正したいホワイトバランスモードを選択します。**

3 **で補正方向を選択します。**

R-B　赤－青
G-M　緑－赤紫

- 各補正方向を組み合わせて設定できます。

R-B方向で補正する場合

現在のホワイトバランスの値に対し、を押すたびに赤味がかり、を押すたびに青味がかった画像になります。

G-M方向で補正する場合

現在のホワイトバランスの値に対し、を押すたびに、緑の色味が増し、を押すたびに赤紫がかった画像になります。

- R、B、G、Mの各色方向で、それぞれ7段階の補正が可能です。

4 **OKボタンを押します。**

- 補正値が決定されます。

こんなときは

補正したホワイトバランスを確認したい

→ 手順 3 で補正値を設定した後、試し撮りをするために被写体にカメラを向けます。**AEL** ボタンを押すと、設定したホワイトバランスの条件で、撮影したサンプル画像が表示されます。

すべてのホワイトバランスモードを一括して補正したい

→ 「全 WB モード補正」（P 117）をご参照ください。

6 露出・色・画像

WB ブラケット撮影

1回の撮影から、1つの補正方向に対して色合い（ホワイトバランス）を変えた3枚の画像を自動的に作成します。カードには、カメラの設定で撮影された画像と、その画像から色合いを変更した画像2枚が記録されます。

1 **MENU ▶［ 2］▶［WB BKT］**

2 **で補正方向を選択します。**

R-B	赤－青
G-M	緑－赤紫

- 各補正方向を組み合わせて設定できます。

3 **で補正ステップを設定します。**

［OFF］/［3F 2STEP］/［3F 4STEP］/［3F 6STEP］

4 **撮影します。**

- 1回の撮影で、1つの補正方向に対して3コマの画像を作成します。

こんなときは

補正したホワイトバランスを中心に WB ブラケット撮影をしたい

→ WB 補正をした状態で、WB ブラケットを設定してください。すでに補正されている値を中心として WB ブラケット撮影が行われます。

注意

- WBブラケット撮影では、カメラのメモリとカードに設定枚数以上の空きがないと、続けて撮影ができません。

仕上がりモード

画像の色調を、撮影意図に応じて選択することができます。また個別に、コントラストやシャープネスなどの画像パラメータを微調整することもできます。

1 **MENU ▸ ［📷1］ ▸ ［仕上がり］**

2 **で仕上がりモードを選びます。**

［VIVID］　色鮮やかに仕上げます。
［NATURAL］　自然な色合いに仕上げます。
［FLAT］　素材性を重視した仕上がりになります。
［モノトーン］　モノクロ調に仕上げます。
［セピア］　セピア調に仕上げます。

3 **で以下の設定値を調整します。選んだモードによって設定できる調整パラメータが異なります。**

［VIVID］/［NATURAL］/［FLAT］を選択した場合

［コントラスト］　：明暗の差
［シャープネス］　：画像の鮮鋭
［彩度］　：色の鮮やかさ

［セピア］/［モノトーン］を選択した場合

［コントラスト］　：明暗の差
［シャープネス］　：画像の鮮鋭
［フィルター効果］：フィルター色と同じ色を明るく、補色を暗くした白黒画像にします。

［N:無し］　通常の白黒画像になります。
［Ye:黄色］　自然な青空にくっきりとした白い雲が再現されます。
［Or:オレンジ］　青空らしさ・夕日の輝きが少し強調されます。
［R:赤］　青空らしさ・紅葉の輝きがよりいっそう強調されます。
［G:緑］　赤い唇・緑の葉がよりいっそう強調されます。

［調色］：白黒画像に色味をつけます。

［N:無し］　通常の白黒画像になります。
［S:セピア］　セピア
［B:青］　青味
［P:紫］　紫味
［G:緑］　緑味

4 **ボタンを押します。**

- 調整値が決定されます。

スーパーコンパネでも設定できます。

階調

標準階調以外に2種類の階調を選択できます。

ハイキー:明るい被写体の階調を広げます。

ローキー:暗い被写体の階調を広げます・

ハイキー
ハイライト部の多い被写体に最適です。

ローキー
シャドウ部の多い被写体に最適です。

1 **MENU ▸［1］▸［階調］**

2 **で設定します。**

［ハイキー］/［標準］/［ローキー］

- 通常は［標準］に設定してください。

3 **ボタンを押します。**

カードセットアップ
カスタムリセット設定
仕上がり
階 調
画質モード
ハイキー
標 準
ローキー
中止 MENU 選択 決定 OK

注意

- 標準以外の階調ではコントラスト調整は反映されません。

6 露出・色・画像

シェーディング補正

レンズの特性により、画面の周辺が暗くなることがあります。これを補正して、明るくします。特に広角レンズを使用したときに、この機能が効果を発揮します。

1 **MENU ▸［2］▸［シェーディング補正］**

2 **で［OFF］か［ON］を選択します。**

3 **ボタンを押します。**

注意

- テレコンバージョンレンズやエクステンションチューブを装着しているときは、この機能は働きません。
- ISO感度の高い設定で行うと、画面周辺のノイズが目立つことがあります。

ノイズリダクション ―長秒時の画像のノイズを軽減する

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。ノイズリダクションをONに設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。長秒時撮影時の画像のノイズについてはP 38をご覧ください。

OFF

ON

1 **MENU ▸［ 1］▸［ノイズリダクション］▸［ON］**

2 **ボタンを押します。**

3 **撮影します。**

- 撮影後にノイズを取り除く動作をします。
- 処理中は、カードアクセスランプが点滅します。カードアクセスランプが消えるまで、次の撮影はできません。
- 処理中は、ファインダ内で busy と表示されます。

注意

- SCENEモードをに設定していると、［ノイズリダクション］は［ON］に固定されます。
- ノイズリダクションの設定が［ON］のとき、連写はできません。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。

記録する画像の色空間を設定する — カラー設定

撮影した画像を、モニタやプリンタで再現する際、色再現を正しく行うための方式を選択します。設定したカラー空間は、画像のファイル名に表示されます。☞「ファイルネーム」(P 123)

Pmdd0000.jpg
- P : sRGB
- _ : Adobe RGB

[sRGB]　Windowsの標準の色空間。
[Adobe RGB]　Adobe Photoshopで設定できる色空間。

1 MENU ▸ [$ \Upsilon_2 $] ▸ [カラー設定]

2 ◎で[sRGB]か[Adobe RGB]を選択します。

3 Ⓞボタンを押します。

低振動モード

ミラーアップ後、少し時間を空けてシャッターが切れるように設定できます。カメラブレを最小限に抑えた撮影をすることができます。顕微鏡撮影や超望遠レンズでの撮影など、ミラーアップのショックが気になる場面で使います。

1 MENU ▸ [📷2] ▸ [低振動モード]

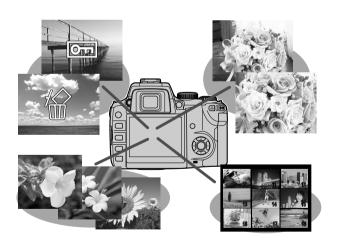
2 ◎で[OFF]か[1秒]〜[30秒]を選択します。

3 Ⓞボタンを押します。

6

露出・色・画像

画像の再生で使える機能

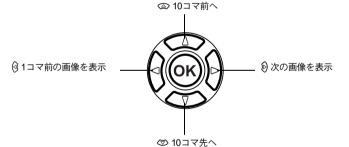
デジタルカメラのメリットは、なんといっても撮影した画像をその場ですぐに確認できること。「手ぶれしている」「ピントが合っていない」など、フィルムカメラでは現像してみなければ気づかない失敗も、デジタルカメラなら即座に撮り直しができます。失敗作はすぐ消去してしまえば、無駄のない撮影が可能に。逆に、大切な画像を間違って消さないよう、プロテクトをかけることもできます。
撮った画像は、好みに合わせてモノクロやセピアにしたり、メール送信用に画像サイズを変更したり。これらのメリットを活かし、思う存分デジタルカメラを楽しみましょう。

1 コマ再生

以下が画像を見るための基本的な手順です。
撮影した画像を見たり、編集する方法はいろいろありますが、どの方法も以下の手順1をしてから、各再生機能を行ってください。

1 ▶（再生）ボタンを押します。

- 1分以上何も操作をしないと、カメラは液晶モニタを消灯して動作を停止します。その約1時間何も操作をしないと自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れなおしてください。

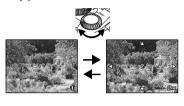
最後に撮影した画像が表示されます。

2 で表示したい画像を選択します。

- 再生を終了するときは、再度、▶ボタンを押します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影に戻ります。

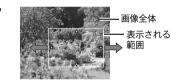
クローズアップ再生

1コマ再生している画像を拡大表示します。
画像の細部の確認に便利です。

1 コントロールダイヤルを 側に回すたびに2～14倍と拡大倍率が変化します。

- 側にコントロールダイヤルを回すたびに、画像が前のサイズに戻ります。

クローズアップ位置を変更する

1 クローズアップ再生中に、画像をずらしたい方向と同じを押します。

- 画像の端までくると△▽▷◁は表示されません。

クローズアップ位置を表示する

1 クローズアップ再生中に、INFOボタンを押します。

- クローズアップしていたところが、枠で囲まれて表示されます。

クローズアップのままコマ送りをする

1 INFOボタンを押します。

2 を使って見たい画像を選択します。

3 さらに画像を拡大したり画像を元のサイズに戻すには、再度INFOボタンを押します。

7
画像の再生で使える機能

ライトボックス表示

クローズアップ再生中（☞ P 91）に、他の画像も同時に見ることができます。ブラケット撮影などの画像の比較に便利です。

1 1コマ再生中に（ワンタッチWB）ボタンを押すと、x10の倍率で1コマ枠表示が出ます。

- で拡大したい部分を選択し、再度ボタンを押すとクローズアップ再生になります。

2 [···]（AFフレーム選択）ボタンを押します。

- 最初に表示していたコマが画面の左半分に表示され、次のコマが同じ拡大倍率でクローズアップされて、右半分に表示されます。

3 で画面を選択します。

- 画像のプロテクト・消去・コピーができます。

4 [···] ボタンを押すと1コマのクローズアップ再生に戻ります。

注意

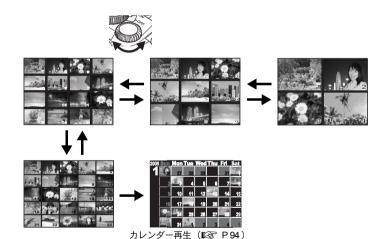
- ライトボックス表示では拡大倍率の変更はできません。

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。多くの画像の中から必要な画像を検索するのに便利です。

1 **コントロールダイヤルを 側に回すたびにコマ数が4、9、16、25コマと変化します。**

- ：前のコマへ移動
- ：次のコマへ移動
- ：左上の画像の前のインデックスを表示
- ：右下の画像の次のインデックスを表示

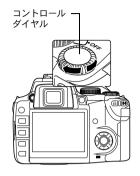
カレンダー再生（☞ P94）

カレンダー再生

カードに保存されている画像を、カレンダー上の日付で指定して表示することができます。同じ日付に複数の画像がある場合は、その日最初に撮影された画像が表示されます。

1 **インデックス再生（☞ P 93）をして、カレンダー再生画面が表示されるまでコントロールダイヤルを側に回します。**

2 **で表示したい画像を選択します。**

7
画像の再生で使える機能

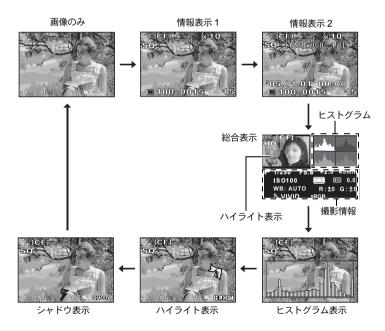
情報表示 INFO

画像の詳細情報を表示することができます。
また、画像の輝度情報を、ヒストグラムやハイライト表示で図示することもできます。

INFO ボタン

1 選択したい情報が表示されるまで、INFO（情報表示）ボタンを繰り返し押します。

- この設定は記憶され、次回表示する際も同じ表示がされます。

画像のみ → 情報表示 1 → 情報表示 2 → 総合表示 → ヒストグラム表示 → ハイライト表示 → シャドウ表示 → 画像のみ

総合表示：ヒストグラム／撮影情報／ハイライト表示

情報表示1

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・ファイル番号

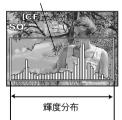
情報表示2

コマ番号・プリント予約・プロテクト・画質モード・画像サイズ・圧縮率・日時・ファイル番号

ヒストグラム表示

撮影した画像の明るさの分布をヒストグラム（輝度成分グラフ）で表示します。明るさをデータとして確認することで、より厳密な露出を次の撮影に反映できます。
画質モードも表示されます。

ヒストグラムの活用

ヒストグラムは白トビや黒つぶれのチェックができます。ヒストグラムの右端付近が著しく突出したグラフの場合は、白トビの可能性があり、逆に左端付近が著しく突出したグラフの場合は、黒つぶれの可能性があります。露出を補正するか、再度撮影してください。

ハイライト表示

撮影した画像の露出オーバーな部分（ハイライト）を点滅して表示します。画質モードも表示されます。

シャドウ表示

撮影した画像の露出アンダーな部分（シャドウ）を点滅して表示します。画質モードも表示されます。

総合表示

撮影情報、ヒストグラム、ハイライト表示を同時に表示します。

画像を連続自動再生する（スライドショー）

カードに記録された画像を自動的に連続して再生します。表示している画像から、順に約5秒間ずつ表示されます。インデックス表示で自動再生することができます。同時に表示できるコマ数は1、4、9、16、25コマから選択できます。

1 **MENU ▶ ［▶］ ▶ ［自動再生］**

2 **で設定します。**

［1］　1コマ表示
［4］　4コマ表示
［9］　9コマ表示
［16］　16コマ表示
［25］　25コマ表示

3 **OK ボタンを押すと自動再生がスタートします。**

4 **OKボタンを押すと停止します。**

4 を選択したとき

注意

- 自動再生を30分続けると、カメラの電源が自動的に切れます。

7

画像の再生で使える機能

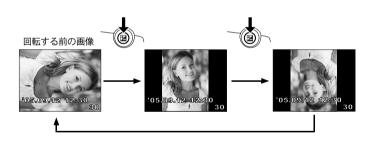
回転再生

撮影した画像を回転して縦位置表示することができます。縦位置で撮影したときなどに便利です。

1 **MENU ▶ [▶] ▶ [回転再生] ▶ [ON]**

2 **Ⓞを押します。**

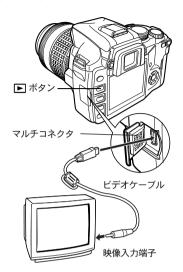
3 **☒（露出補正）ボタンを押すたびに、画像が回転します。**

- 回転表示した状態は、カードに記録されます。

テレビで画像を再生する

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。

1 **カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルを図のように接続します。**

2 **テレビの電源を入れ、ビデオ入力に設定します。設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。**

3 **カメラの電源を入れ、▶（再生）ボタンを押します。**

注意

- テレビとカメラを接続する場合は必ず付属のビデオケーブルを使用してください。
- カメラのビデオ信号がお使いのテレビの映像信号に合っているかどうかを確認してください。☞「TVにつなぐ前に」(P 127)
- ビデオケーブルを接続するとカメラの液晶モニタは消灯します。
- お使いのテレビによっては再生画像が画面中央からずれることがあります。

静止画編集

撮影した画像を編集して別の画像として保存します。画像のデータ形式によって、可能な編集が決定します。プリント可能なファイルはJPEGとTIFFです。RAWファイルは、そのままではプリントできません。プリントする場合はRAW編集機能を使って望みの画質のJPEGファイルに編集しましょう。

RAW データ形式で記録した画像の編集

RAWデータ形式の画像にホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、TIFFやJPEGの画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。
この操作を行う時点のカメラの設定で、画像が処理されます。編集するときに他の設定を使いたい場合、あらかじめカメラの設定を変更しておきます。

JPEG/TIFF 形式で記録した画像の編集

[モノクロ作成] 白黒に変換します。
[セピア作成] セピア色に変換します。
[赤目補正] フラッシュ撮影で目が赤く写った部分を軽減させます。
[鮮やかさ調整] 画像の色をより鮮やかにします。
[リサイズ] 画像サイズを1280×960、640×480、または320×240に変換します。

RAW データ形式の画像

JPEG/TIFF データ形式の画像

注意

- TIFFの画像はSHQの画像として保存されます。

1 **MENU ▸ ［▶］▸［編集］**

2 **◁▷で画像を選択します。OKボタンを押します。**

• 画像のデータ形式をカメラが認識します。

3 **画像のデータ形式によって、表示される画面が変わります。編集するデータを選択し、各設定項目の手順を行ってください。**

JPEG/TIFFデータ形式の画像を編集する場合

［モノクロ作成］/［セピア作成］/［赤目補正］/［鮮やかさ調整］/［リサイズ］

RAWデータ形式の画像を編集する場合

RAW編集による画像はカメラの設定に基づいて生成されます。カメラは目的に合わせた設定で撮影してください。

セピア作成 ☞ P 103
赤目補正 ☞ P 103
鮮やかさ調整 ☞ P 103
リサイズ ☞ P 104

RAW編集

1 **△▽で［実行］を選択します。**

2 **OKボタンを押します。**

• 他の画像を編集するときは、◁▷で画像を選択します。
• 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

モノクロ作成

1 **△▽で［モノクロ作成］を選択し、OKボタンを押します。**

2 **△▽で［実行］を選択し、OKを押します。**

• 他の画像を編集するときは、◁▷で画像を選択します。
• 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

セピア作成

1 ⒶⓋで［セピア作成］を選択し、ⓞⓚボタンを押します。

2 ⒶⓋで［実行］を選択し、ⓞⓚを押します。

- 他の画像を編集するときは、◁▷で画像を選択します。
- 編集をするときは、**MENU**ボタンを押します。

赤目補正

1 ⒶⓋで［赤目補正］を選択し、ⓞⓚボタンを押します。

- ［処理中］バーが表示された後、補正する部分が青い枠で囲まれた画像が表示されます。

2 ⒶⓋで［実行］を選択し、ⓞⓚボタンを押します。

- 他の画像を編集するときは、◁▷で画像を選択します。
- 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

注意

- ［RAW］または［TIFF］で記録した画像は赤目補正できません。
  画像によっては赤目補正できないことがあります。また、目以外の部分が補正されることがあります。

鮮やかさ調整

1 ⒶⓋで［鮮やかさ調整］を選択し、ⓞⓚボタンを押します。

2 ⒶⓋ で明るさを調整し、ⓞⓚ ボタンを押します。

3 ⒶⓋで［実行］を選択し、ⓞⓚを押します。

- 他の画像を編集するときは、◁▷ で画像を選択します。
- 編集を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

リサイズ

1 **で［リサイズ］を選択し、OK ボタンを押します。**

2 **で画像サイズを選択し、OK ボタンを押します。**

- ［処理中］バーが表示され、画像が保存ます。
- リサイズされた画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- 他の画像を編集するときは、で画像を選択します。
- 編集を終了するときは、**MENU** ボタンを押します。

注意

- 次の場合はリサイズできません。
  RAW で記録した画像／パソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合／他のカメラで撮影した画像
- 撮影時の画像サイズより大きなサイズには設定できません。

画像のコピー

xD ピクチャーカードとコンパクトフラッシュまたはマイクロドライブ間で画像をコピーします。両方にカードが入っていないと、このメニューは選択できません。選択されているカードがコピー元になります。

全コマコピー

1 MENU ▸［▶］▸［全コマコピー］

2 ▷を押します。

3 △▽で［実行］を選択します。

4 ⓞを押します。

選択コマのコピー

1 再生中にⓞボタンを押します。

2 画像を選択する画面が表示されたら、◁▷で選択枠をコピーしたい画像に合わせて、ⓞを押します。

- 選択された画像は赤枠で表示されます。
- 選択を取り消すには、再度ⓞボタンを押します。

3 コピーする画像を選択し終えたら、COPY（コピー）ボタンを押します。

4 △▽ で［実行］を選択し、ⓞ ボタンを押します。

- コピーを終了するには **MENU** ボタンを押します。
- インデックス再生中でも操作できます。

1コマコピー

1 コピーしたい画像を表示して、COPY（コピー）ボタンを押します。

2 △▽で［実行］を選択し、ⓞボタンを押します。

画像にプロテクトをかけるー誤消去防止

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1 プロテクトをかけたい画像を再生します。**☞ P 90**

2 AEL/AFL/O‒π（プロテクト）ボタンを押します。

• 画面にO‒πが表示されます。

プロテクトを解除するには

プロテクトされている画像を再生しAEL/AFL/O‒πボタンを押します。

注意

• カードをフォーマットした場合は、プロテクトされている画像でも消去されます。☞ P 18
• プロテクトされた画像は回転再生できません。

7

画像の再生で使える機能

画像を消去する

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去と、カード内の画像すべてを消去する全コマ消去があります。

注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクトをかける－誤消去防止」(P 106)

1 コマ消去

1 **消去したい画像を再生します。**

2 **（消去）ボタンを押します。**

3 **で［実行］を選択し、ボタンを押します。**

ボタン

こんなときには

画像をすぐに消去したい

→［ワンプッシュ消去］（P 122）を設定すると、ボタンを押すとすぐに画像を消去できます。

全コマ消去

1 **MENU ▸ ［］▸ ［カードセットアップ］**

2 **で［全コマ消去］を選択します。ボタンを押します。**

7

画像の再生で使える機能

3 **で［実行］を選択し、ボタンを押します。**

• 全コマ消去が実行されます。

選択コマ消去

インデックス再生で選択した画像を一度に消去できます。インデックス再生または1コマ再生で、複数画像を選択して消去できます。

1 **インデックス再生をします。** **P 93**

2 **で緑の選択枠を消去したい画像に合わせて、ボタンを押します。**

• 消去が選択された画像は赤枠で表示されます。

• 選択を取り消すには、再度**ボタン**を押します。

3 **消去する画像を選択し終えたら、（消去）ボタンを押します。**

4 **で［実行］を選択します。**

5 **ボタンを押します。**

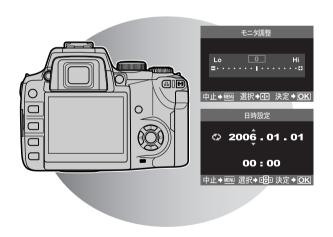
実行優先設定

［2］メニューの［実行優先設定］（P 121）で、初期設定のカーソルの位置を［実行］に設定することができます。

ワンプッシュ消去

［1］メニューの［ワンプッシュ消去］（P 122）を設定すると、ボタンを押すとすぐに画像を消去できます。

8 設定・機能のカスタマイズ

デジタルカメラの良さのひとつに、自分の使い勝手に合わせてカメラをカスタマイズできる点があげられます。「よく使う機能をボタンで呼び出したい」「シャッター速度や露出補正値の変更ステップを変えて、自分の思う値にもっと近付けたい」「自分がカスタマイズした機能を簡単に呼び出したい」― そんなあなたにぴったりな機能をここでは紹介します。機能を上手に活用してカメラをより使いやすくしてください。

カスタムリセット設定

このカメラでは、設定を変更した機能は、電源を切ってもリセットされません。ただし、[リセット]により出荷時の設定に戻したり、あらかじめリセット内容を2通り登録できる[リセット 1]・[リセット 2]が備えられています。

リセット内容の登録先

1 MENU ▶ [1] ▶ [カスタムリセット設定]

2 で設定します。

[リセット1] / [リセット2]

- すでに登録している場合、上記の選択肢には[登録]と表示されます。

3 で[登録]を選択します。

- 現在の設定がカメラに登録されます。

登録を解除する場合

で[クリア]を選択します。

- 登録内容がクリアされます。

4 OKボタンを押します。

リセット操作

カメラの電源を入れたとき、[RESET 1]または[RESET 2]の登録内容にリセットしたり、初期設定に戻します。

1 MENU ▶ [1] ▶ [カスタムリセット設定]

2 で設定します。

[リセット] カメラを出荷時の設定にします。

[リセット1] / [リセット2]
登録した内容にリセットします。

3 OKボタンを押します。

4 で[実行]を選択します。

5 OKボタンを押します。

登録可能な機能と初期設定にリセットできる機能

機能	初期設定	カスタムリセットの登録可否	マイモードへの登録可否
仕上がり	VIVID	✓	✓
階調	標準	✓	✓
画質モード	HQ	✓	✓
露出補正	±0	✓	✓
ノイズリダクション	OFF	✓	✓
WBモード	オート	✓	✓
ISO感度	オート	✓	✓
測光	ESP	✓	✓
フラッシュモード	オート発光*1	✓	✓
		✓	✓
AF方式	S-AF	✓	✓
	オート	✓	✓
AE BKT	OFF	✓	✓
WB BKT	OFF	✓	✓
FL BKT	OFF	✓	✓
MF BKT	OFF	✓	✓
低振動モード	OFF	✓	–
再生モード	1コマ再生（情報表示なし）	–	–
ISO感度ステップ	1/3EV	✓	–
ISO感度拡張	OFF	✓	–
ISOリミッター	OFF	✓	–
露出ステップ	1/3EV	✓	–
全WBモード補正	±0	–	–
HQ設定	1/8	✓	–
SQ設定	1280 x 960, 1/8	✓	–
内蔵フラッシュ拡張	OFF	✓	–
+連動	OFF	✓	–
同調速度設定	1/180	✓	✓
自動ポップアップ	ON	✓	–
ダイヤル設定	**Ps***1	✓	–
AEL/AFLモード	mode1*2	✓	–
AEL/AFL MEMO	OFF	✓	–
AEL測光設定	測光モードに連動	✓	–

機能	初期設定	カスタムリセットの登録可否	マイモードへの登録可否
ワンプッシュ消去	OFF	✓	–
RAW+JPEG消去	RAW+JPEG	✓	–
ボタン機能	ワンタッチWB	✓	–
マイモード設定	–	✓	–
フォーカスリング		✓	–
AFイルミネータ	ON	✓	✓
レンズリセット	ON	–	–
レリーズ優先S	OFF	✓	✓
レリーズ優先C	ON	✓	✓
日時設定	2005.01.01	–	–
記録カード選択	CF	–	✓
ファイルネーム	オート	–	–
ファイルネーム編集	OFF	–	–
モニタ調整	0	–	–
（言語選択）	日本語	✓	–
ビデオ出力	NTSC	–	–
ビープ音	ON	✓	–
レックビュー	OFF	✓	–
スリープ時間	1分	✓	–
自動電源OFF	4時間	–	–
ボタンON保持時間	3秒	–	–
起動画面	OFF	–	–
パネル配色	配色1	–	–
実行優先設定	中止優先	✓	–
USB接続モード	オート	–	–
カラー設定	sRGB	✓	–
シェーディング補正	OFF	✓	✓
ピクセルマッピング	–	–	–
クリーニングモード	–	–	–
バージョン	–	–	–

✓ ：登録可
— ：登録不可。［リセット 1］・［リセット 2］の登録内容にリセットしたときは、現在使用している設定が保持されます。初期設定には戻りません。
*1 ：設定している露出モードによって、初期設定が変わります。
*2 ：設定しているフォーカスモードによって、初期設定が変わります。

AEL/AFL モード

シャッターボタンの半押し時
- AFのスタート
- フォーカスロック
- AEロック

をAELボタンに割り当てることができます。たとえば、

- フォーカスロックをロックしておいて、最後にAEを決めて撮影。
- AEをロックしておいて、最後にフォーカスを決めて撮影。
- AEとAFを決めておいて、シャッターチャンスを待って撮影。

S-AFモード、C-AFモード、MFモードのそれぞれで、選択できるモードは異なります（☞ P 62）。

1 **MENU ▶ ［Ⅰ1］ ▶ ［AEL/AFLモード］**

2 **でフォーカスモードを設定します。**
［S-AF］/ ［C-AF］/ ［MF］

3 **でAEL / AFLモードを設定します。**

［S-AF］ mode1からmode3のうち、いずれかを選択します。
［C-AF］ mode1からmode4のうち、いずれかを選択します。
［MF］ mode1からmode3のうち、いずれかを選択します。

4 **ボタンを押します。**

S-AF モードで選択できるモード

モード	シャッターボタンの役割				AEL ボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
mode 1	固定	固定	–	–	–	固定
mode 2	固定	–	–	固定	–	固定
mode 3	–	固定	–	–	固定	–

C-AF モードで選択できるモード

モード	シャッターボタンの役割				AEL ボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
mode 1	ピント合わせ開始	固定	固定	–	–	固定
mode 2	ピント合わせ開始	–	固定	固定	–	固定
mode 3	–	固定	固定	–	ピント合わせ開始	–
mode 4	–	–	固定	固定	ピント合わせ開始	–

MF モードで選択できるモード

モード	シャッターボタンの役割				AEL ボタンの役割	
	半押し時		全押し時		押している間	
	ピント	露出	ピント	露出	ピント	露出
mode 1	–	固定	–	–	–	固定
mode 2	–	–	–	固定	–	固定
mode 3	–	固定	–	–	S-AF	–

AEL/AFL MEMO

AEL（AEロック）ボタンを押すたびに、AEロックとAEロック解除を切り換えることができます。

1 **MENU ▶［1］▶［AEL/AFL MEMO］**

2 **で［ON］か［OFF］を選択します。**

3 **ボタンを押します。**

AEL 測光モード

AEL（AEロック）ボタンを押して露出を固定するときに（P 73）、自動的にメニューで設定した測光方式で測光するようにします。

1 **MENU ▶［1］▶［AEL測光モード］**

2 **で設定します。**

［オート］/［］/［］/［ HI］/
［ SH］/

3 **ボタンを押します。**

露出ステップ

シャッター速度・絞り値・露出補正値などの露出パラメータ設定の変更ステップを切り替えます。

1 **MENU ▶［1］▶［露出ステップ］**

2 **で設定します。**

［1/3EV］/［1/2EV］/［1EV］

3 **ボタンを押します。**

ISO 感度ステップ

ISO感度の補正ステップを切り替えます。

1 **MENU ▸ ［ʕ1］ ▸ ［ISO感度ステップ］**

2 **ⓘで設定します。**
［1/3EV］/［1EV］

3 **ⓞボタンを押します。**

ISO 感度拡張

ONに設定すると、ISO 100～400に加えてISO800～1600が使えるようになります。

1 **MENU ▸ ［ʕ1］ ▸ ［ISO感度拡張］**

2 **ⓘで設定します。**
［OFF］/［ON+NF］/［ON］

3 **ⓞボタンを押します。**

注意

• ［ON+NF］に設定しているとノイズが少なくなりますが、撮影時間が通常より長くなります。

ISO リミッター

画像が粗くなるのを避けるため、明るい場合のISO値の上限を設定することができます。

1 **MENU ▸ ［ʕ1］ ▸ ［ISOリミッター］**

2 **ⓘで設定します。**
［OFF］/［100］/［200］/［400］/［800］

3 **ⓞボタンを押します。**

全 WB モード補正

ホワイトバランスの各モードを一括して同じ値に補正します。

1 **MENU ▸［γ_1］▸［全WBモード補正］**

2 **で設定します。**

［ALL SET］ すべての WB モードを一括して同じ値に補正します。
［ALL CLEAR］すべての WB 補正値を一括して0にします。

3 **ボタンを押します。**

4 **選択によって以下の手順を行ってください。**

［ALL SET］を選択

1) **で補正方向を選択します。**

R-B　赤 – 青
G-M　緑 – 赤紫

2) **で補正します。「WB補正」（☞ P83）**

• 補正したホワイトバランスを確認できます。

［ALL CLEAR］を選択

1) **で［実行］を選択します。**

5 **ボタンを押します。**

内蔵フラッシュ拡張

内蔵フラッシュを、固定した発光量で発光させることができます。［ON］に設定するとフラッシュモードの設定項目にFULL、1/4、1/16、1/64発光の選択が加わります。

1 **MENU ▸［γ_1］▸［内蔵フラッシュ拡張］**

2 **で［ON］か［OFF］を選択します。**

3 **ボタンを押します。**

8
設定・機能のカスタマイズ

同調速度設定

内蔵フラッシュ発光時のシャッター速度を、1/60から1/180までの間で設定できます。

1 MENU ▸［ᛘ1］▸［同調速度設定］

2 ◌で速度を設定します。

3 ⓞボタンを押します。

注意

- 市販のフラッシュの同調速度はフラッシュの取扱説明書をお読みください。

自動ポップアップ

AUTO・人物＆風景・ポートレート撮影では、内蔵フラッシュは暗いときや逆光のときには自動的にポップアップしますが、この機能をOFFにし強制的にポップアップさせないこともできます。

1 MENU ▸［ᛘ1］▸［自動ポップアップ］

2 ◌で［ON］か［OFF］を選択します。

3 ⓞボタンを押します。

コントロールダイヤルのカスタマイズ

コントロールダイヤルの機能はお買い上げ時は次のように設定されています。

P プログラム撮影時

Psプログラムシフト	：ダイヤルを回して設定します。
露出補正	：（露出補正）ボタンを押しながらダイヤルを回して設定します。

M マニュアル撮影時

シャッター速度	：ダイヤルを回して設定します。
絞り値（F値）	：（露出補正）ボタンを押しながらダイヤルを回して設定します。

次の操作により逆の設定にすることができます。

P　コントロールダイヤルだけで、露出補正できます。
M　コントロールダイヤルだけで、絞りを設定できます。

1 **MENU ▶ [1] ▶ [ダイヤル]**

2 **で［P］か［M］を選択します。**

［P］を選択した場合

1) で設定します。

［Ps］	プログラムシフト
［露出補正］	露出補正

［M］を選択した場合

1) で設定します。

［シャッタ速度］	シャッター速度
［絞り］	絞り

3 **ボタンを押します。**

8
設定・機能のカスタマイズ

ボタン機能

(ワンタッチWB) ボタンを登録により別の機能に置き換えることができます。

1 **MENU ▶ [1] ▶ [ボタン機能]**

2 **で設定します。**

[ワンタッチWB]

ワンタッチホワイトバランスボタン（出荷時の設定）

[試し撮り撮影]

シャッターボタンを押すと、レックビューで画像を確認できますが、カードには記録されません。すばやく設定値の効果を確認するのに便利です。

[マイモード撮影]

ボタンを押している間、[マイモード設定] で登録した設定内容で撮影することができます。☞「マイモード設定」(下記参照)

[プレビュー]

ボタンを押している間、設定された絞り値まで絞り込みます。
☞「プレビュー機能」(P 39)

3 **ボタンを押します。**

マイモード設定

撮影の途中で、一時的に呼び出せるように2通りの撮影設定を登録することができます。メモ撮影用など、一時的に簡単に設定を変更して撮影したいときに便利です。登録した撮影設定は、ボタンを使って呼び出せます。

1 **MENU ▶ [1] ▶ [マイモード設定]**

2 **で設定します。**

[マイモード1] / [マイモード2]

- すでに登録している場合、上記の選択肢には［登録］と表示されます。

3 **で［登録］を選択します。**

- 現在の設定がカメラに登録されます。

登録を解除する場合

で［クリア］を選択します。

- 登録内容がクリアされます。

4 **ボタンを押します。**

8
設定・機能のカスタマイズ

レンズリセット

カメラの電源を切ったときに、レンズのフォーカス位置をリセット（無限遠）します。

1 **MENU ▸［Ÿ1］▸［レンズリセット］**

2 **Ⓢで［ON］か［OFF］を選択します。**

3 **Ⓞボタンを押します。**

フォーカスリング

フォーカスリングの回転方向とピントの移動方向を切り替えることができます。

1 **MENU ▸［Ÿ1］▸［フォーカスリング］**

2 **Ⓢで［ ↻ ］か［ ↺ ］を選択します。**

3 **Ⓞボタンを押します。**

実行優先設定

［全コマ消去］・［1コマ消去］・［フォーマット］画面における選択枠の初期位置を、［実行］［中止］のどちらにするかを選択することができます。

1 **MENU ▸［Ÿ2］▸［実行優先設定］**

2 **Ⓢで［実行優先］か［中止優先］を選択します。**

3 **Ⓞボタンを押します。**

ワンプッシュ消去

（消去）ボタンを押して、すぐに画像を消去するように設定します。

1 **MENU ▶ ［1］▶［ワンプッシュ消去］**

2 **で設定します。**

［OFF］ 消去ボタンを押すと消去を実行するかどうかを確認する画面が表示されます。

［ON］ 消去ボタンを押すとすぐに消去が実行されます。

3 **ボタンを押します。**

RAW ＋ JPEG 消去

1コマ消去するとき、どのファイルから消去するかを選択することができます。

1 **MENU ▶ ［1］▶［RAW＋JPEG消去］**

2 **で設定します。**

［JPEG］ RAW と JPEG のファイルから、JPEGファイル消去してRAWファイルにします。

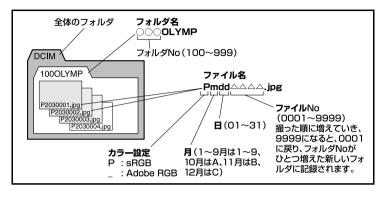
［RAW］ RAW と JPEG のファイルから、RAWファイル消去してJPEGファイルにします。

［RAW＋JPEG］
RAWとJPEGのファイルを同時に消去します。

3 **ボタンを押します。**

8 設定・機能のカスタマイズ

ファイルネーム

撮影した画像は、カードに記録されるときに、ファイル名が付けられ、フォルダに入れられます。
ファイル名とフォルダ名は、図のように付けられます。

1 **MENU ▶ ［2］▶［ファイルネーム］**

2 **で設定します。**

［オート］ カードを入れ換えても、ファイルNoは通し番号で付けられます。ただし、カード内に記録された画像のファイルNoと重複する場合は、そのカードの中のもっとも大きいファイルNoに続いた番号が付けられます。

［リセット］ 新しいカードを入れたときは、フォルダNoは100、ファイル名は0001から始まります。すでに画像が記録されたカードでは、もっとも大きいファイルNo.に続けて番号が付けられます。

3 **ボタンを押します。**

注意

- 最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

ファイルネーム編集

画像のファイル整理に便利なようにファイルネームを1文字変更できます。

1 ［sRGB］か［AdobeRGB］を選択します。（☞ P 88）

2 MENU ▶［2］▶［ファイルネーム編集］

3 で先頭の文字を入力します。を押して次の項目に進み、で2番目の文字を入力します。

sRGB：Pmdd0000.jpg　　AdobeRGB：_mdd0000.jpg

OFF、A～Z、0～9に変更できます。

4 ボタンを押します。

撮影後すぐに画像を確認する — レックビュー

撮影した画像をカードに記録する間、液晶モニタに表示することができます。また、表示する時間も設定できます。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

1 MENU ▶［2］▶［レックビュー］

ビデオ出力
ビープ音
レックビュー　5SEC
スリープ時間
中止→MENU 選択→ 決定→OK

2 で設定します。

［OFF］	記録中の画像は表示されません。
［1秒］～［20秒］	画像を表示する時間を指定します。1秒刻みで設定することができます。

3 ボタンを押します。

ビープ音を設定する

ボタンを押したときにカメラが発する音や警告音をオン/オフすることができます。

1 **MENU ▶［⚒2］▶［ビープ音］**

2 **◎で［ON］か［OFF］を選択します。**

3 **Ⓞボタンを押します。**

液晶モニタの明るさを変える ― モニタ調整

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

1 **MENU ▶［⚒2］▶［モニタ調整］**

2 **◎で明るさを調整します。**

3 **Ⓞボタンを押します。**

スリープ時間

カメラは何も操作しない状態で一定の時間が経過すると、スリープモード（待機状態）になり動作を停止し、電池の消費を抑えます。［スリープ時間］では、スリープモードに入るまでの時間を設定することができます。［OFF］に設定すると、スリープモードには入りません。
スリープモードを解除するには、シャッターボタン、十字ボタンなどのボタンを操作してください。

1 **MENU ▶［⚒2］▶［スリープ時間］**

2 **◎で設定します。**

［OFF］/［1分］/［3分］/［5分］/［10分］

3 **Ⓞボタンを押します。**

USB 接続モード

USBケーブルを使って、カメラをPCやプリンタへ直接接続することができます。あらかじめ何に接続するかを設定しておくと、カメラを接続した際に毎回設定する手間を省くことができます。カメラをこれらの機器に接続した際の使い方は、9章「カメラをプリンタに接続する」（☞ P 138）、10章「カメラをパソコンに接続する」（☞ P 151）をお読みください。

1 **MENU ▸ ［Ÿ2］▸［USB接続モード］**

2 **◎で設定します。**

［オート］ カメラを他の機器と接続したときの使い方を毎回設定します。選択画面が毎回表示されます。

［ストレージ］
USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、パソコンに画像を転送するときに使用します。カメラをパソコンと接続してOLYMPUS　Masterを使うときにもこれに設定します。

［カメラコントロール］
OLYMPUS Studio（別売）を使い、パソコン側でカメラをコントロールします。

［⎙かんたん］
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。パソコンを使わずに直接画像をプリントできます。
☞「カメラをプリンタに接続する」(P 138)

［⎙カスタム］
PictBridge対応プリンタと接続するときに設定します。プリント枚数や用紙などを設定してプリントすることができます。
☞「カメラをプリンタに接続する」(P 138)

表示する言語を切り替える

液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語ではなく、他の言語にすることができます。

1 **MENU ▸ ［2］ ▸ ［ ］**

2 **で表示したい言語を選択します。**

3 **ボタンを押します。**

- OLYMPUS Masterを使って表示する言語を増やすことができます。
  詳しくはOLYMPUS Masterのヘルプをお読みください。

TV につなぐ前に

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。

海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。設定してからテレビにつないでください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

1 **MENU ▸ ［2］ ▸ ［ビデオ出力］**

2 **で［NTSC］か［PAL］を選択します。**

3 **ボタンを押します。**

主な国の映像信号

海外でカメラを接続する前に、あらかじめご確認ください。

NTSC	日本、台湾、韓国、北米
PAL	ヨーロッパ諸国、中国

8 設定・機能のカスタマイズ

ボタン保持時間の設定

機能設定画面を表示中に、操作ボタンを離してから、設定変更を受け付けるまでの時間を指定できます。

1 **MENU ▸［ᛉ2］▸［ボタンON保持時間］**

2 **◎で設定します。**

［HOLD］　もう一度ボタンを押すまでの間、設定変更が可能です。
［3秒］　3秒間設定変更が可能です。
［5秒］　5秒間設定変更が可能です。

3 **Ⓞボタンを押します。**

自動電源 OFF

このカメラは電源を入れた状態で4時間カメラ操作をしないときは、電源の切り忘れによる無駄な電池の消耗を防ぐため自動的に電源が切れます。運動会など、長時間カメラを使用したいときは、この電池節約機能を解除することもできます。

1 **MENU ▸［ᛉ2］▸［自動電源OFF］**

2 **◎で［OFF］か［4時間］を選択します。**

3 **Ⓞボタンを押します。**

起動画面の設定

このカメラは電源を入れると、起動画面が現れた後、スーパーコンパネ表示になります。起動画面が現れないようにするには［OFF］に設定してください。

1 **MENU ▶ ［Ỷ2］ ▶ ［起動画面］**

2 **で［ON］か［OFF］を選択します。**

3 **ボタンを押します。**

パネル配色の設定

液晶モニタの背景色を切り替えることができます。

1 **MENU ▶ ［Ỷ2］ ▶ ［パネル配色］**

2 **で［配色1］か［配色2］を選択します。**

3 **ボタンを押します。**

バージョン

カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。
お問い合わせいただく際やソフトウェアをダウンロードする場合に必要になることがあります。

1 **MENU ▶ ［Ỷ2］ ▶ ［バージョン］**

2 **を押します。カメラや接続しているアクセサリのバージョンが表示されます。**

3 **ボタンを押すと、前の画面に戻ります。**

日時を設定する

日時の情報は画像とともにカードに記録されます。また、ファイル名も日付の情報をもとに付けられます。お使いになる前に必ず正しい日時を設定してください。

1 **MENU ▶［ 2］▶［日時設定］**

2 **で日付の順序を、"年-月-日"、"月-日-年"、"日-月-年"から選択し、を押します。**

- 以下の手順は"年-月-日"に設定した場合の説明です。

3 **で年の項目を入力し、で月の項にすすみます。**

- を押すと、1つ前の項目に戻ります。
- "年"の上2桁は固定されています。

4 **同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。**

- 時刻は24時間表示です。午後2時は14:00と表示されます。

5 **ボタンを押します。**

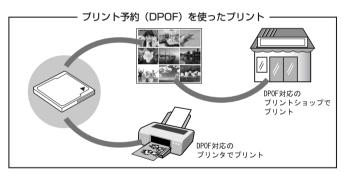
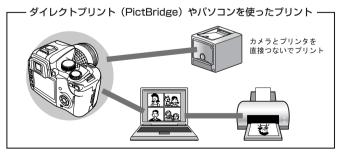
- 0秒の時報に合わせてボタンを押すと、正確に時刻を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

注意

- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。

9 プリントする

撮影した画像はプリントしましょう。これには、プリントショップでプリントする方法と、自分でプリンタを使ってプリントする方法があります。プリントショップでプリントするときは、カードにプリント予約をしておくと便利です。プリント予約は、あらかじめプリントする画像や枚数をカードに設定しておく方法です。
自分でプリントするときは、デジタルカメラを専用プリンタに直接接続して印刷する方法（ダイレクトプリント）と、パソコンに取り込んでパソコンに接続されたプリンタで印刷する方法があります。

プリント予約（DPOF）

プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や、日付を印刷する指定を記憶させることです。
DPOFとは､デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。プリントショップや家庭でのプリントアウトで自動プリントが可能なように、プリントしたい画像や枚数などの指定をカードに記録します。
プリント予約したい画像は以下の方法でプリントできます。

DPOF 対応のプリントショップでプリントする
予約されている内容に従ってプリントできます。

DPOF 対応のプリンタでプリントする
パソコンを使わずに､DPOF対応のプリンタを使ってカードから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。
プリンタによってはPCカードアダプタが必要な場合もあります。

DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ

プリントショップなどのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。

ファイル番号
（例）100 － 0011
画像の通し番号
フォルダの通し番号

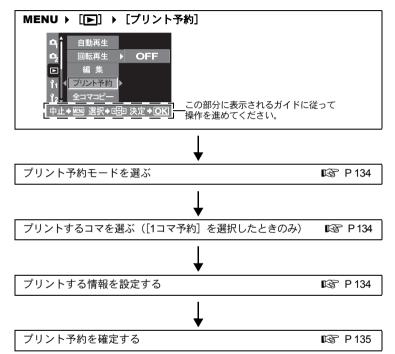
撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi（dot per inch）で示されています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpiの値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。
プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをより高画質に設定することをおすすめします。☞「画質モードを選択する」(P 21)

注意

- 他の DPOF 機器で設定された DPOF 予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- カードに空き容量が少ないと［カード残量がありません］と表示され、予約できない場合があります。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999コマまでです。
- プリンタまたはプリントショップにより、一部機能が制限されることがあります。
- カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

プリント予約設定の流れ

プリント予約には、選択した画像のみプリント予約する［1コマ予約］と、カード内の全画像をプリント予約する［全コマ予約］があります。
カメラを再生モードにしてから（☞ P 90）、以下の設定を行ってください。

プリント予約モードを選ぶ

選択した画像のみをプリント予約するか、カード内の全画像をプリント予約するかを選びます。

[1コマ予約] 選択した画像のみをプリント予約します。

[全コマ予約] カード内の全画像をプリント予約します。全コマ予約を設定した後に撮影された画像にはプリント予約がされません。

すでにプリント予約した画像がある場合

その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。

☞「プリント予約を解除する」(P 135)

プリントする画像を選ぶ

選択した画像のみをプリント予約します。
プリントする画像を表示してプリント枚数を設定します。プリント枚数は10枚まで設定できます。プリント枚数が0のときはプリント予約がされていません。
1コマ予約をした後に全コマ予約を行うと、プリントされる画像はすべて1枚ずつの設定になります。

プリントする情報を設定する

プリント予約を設定した画像に、撮影した日付や時刻をプリントすることができます。

[無し] 画像のみがプリントされます。

[日付] すべての画像に撮影年月日がプリントされます。

[時刻] すべての画像に撮影時刻がプリントされます。

9 プリントする

プリント予約を確定する

[予約する]　プリント予約の設定を確定します。
[予約しない]　プリント予約をやめて、▶メニューに戻ります。

プリント予約を解除する

プリント予約を解除します。すべてのプリント予約を解除する方法と選んだ画像のプリント予約だけを解除する方法があります。

1 カメラを再生モードにします。（☞ P 90）

2 メニュー ▶ [▶] ▶ [プリント予約]

3 で［1コマ予約］か［全コマ予約］を選択します。

[1コマ予約]　選んだ画像のプリント予約を解除したいときに選択します。
[全コマ予約]　すべてのプリント予約を解除したいときに選択します。

4 OK ボタンを押します。

- プリント予約を解除するかどうかを確認する画面が出ます。

5 解除したい予約内容によって、次の手順を行ってください。

1コマ予約の解除

1) [解除しない]を選択し、OK ボタンを押します。

2) でプリント予約を解除したいコマを表示させ、でプリント枚数を0にします。
- 他にも解除するコマがあるときは、これを繰り返します。

0枚に設定する

3) 終わったら、OK ボタンを押します。
- ［日時プリント］画面が表示されます。

9 プリントする

4) ⊕⊖で［無し］、［日付］、［時刻］から選択し、Ⓞボタンを押します。
- 残ったプリント予約されているコマに、選択した設定が適用されます。

5) ⊕⊖で［予約する］を選択し、Ⓞボタンを押します。
- 設定が記録されます。
- ▶ メニューに戻ります。

すべての予約の解除

6) ⊕⊖で［解除する］を選択し、Ⓞボタンを押します。

7) MENU ボタンを押します。
- ▶ メニューに戻ります。

ダイレクトプリント（PictBridge）

カメラをPictBridge対応プリンタにUSBケーブルで接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。プリントする画像の選択やプリント枚数の設定は、カメラとプリンタを接続した状態で、カメラの液晶モニタを見ながら操作します。また、プリント予約の設定内容を使って、プリントすることもできます。（☞ P 132）
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でお確かめください。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

標準設定

PictBridge対応プリンタには、それぞれプリント条件の標準設定があります。各設定画面（☞ P 141）で［標準設定］を選択すると、この設定に従ってプリントされます。標準設定の内容については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧になるか、プリンタメーカーにおたずねください。

プリンタのアクセサリ

プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方については、お使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

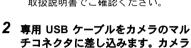
注意

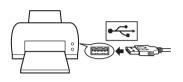
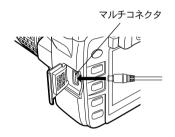
- 電池容量にご注意ください。プリンタと通信中にカメラが動作を停止すると、プリンタが誤動作したり、画像データを壊すことがあります。
- RAW データで記録された画像は、プリントできません。
- USB ケーブルを取り付けているときは、カメラはスリープモード（待機状態）になりません。

カメラをプリンタに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをPictBridge対応プリンタに接続します。

1 プリンタの電源を入れて、プリンタのUSBポートに、カメラに付属の専用USBケーブルのプリンタ接続側のプラグを差し込みます。

- プリンタの電源の入れ方および USB 端子の位置は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

2 専用 USB ケーブルをカメラのマルチコネクタに差し込みます。カメラの電源を入れます。

- USB ケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

3 で［かんたん］か［カスタム］を選択します。

［かんたん］を選択した場合

- 「簡単プリント」（P 139）へ進んでください。

［カスタム］を選択した場合

- ［しばらくお待ちください］と表示されたあとカメラとプリンタが接続され、カメラの液晶モニタにプリントモード選択画面が表示されます。「カスタムプリントの操作の流れ」（P 139）へ進んでください。

注意

- 数分待ってもプリントモード選択画面が表示されないときは、USBケーブルを抜いて、手順2からやりなおしてください。

簡単プリント

1 プリントしたい画像を表示します。

2 COPY（プリント）ボタンを押します。

カスタムプリントの操作の流れ

この部分に表示されるガイドに従って操作を進めてください。

プリントモードを選ぶ	☞ P 140

↓

用紙の設定をする	☞ P 141

↓

プリントするコマを選ぶ	☞ P 141

↓

プリントする情報を設定する	☞ P 142

↓

プリントする	☞ P 142

プリントモードを選択する

プリントの種類（プリントモード）を選びます。選択できるプリントモードは、以下のとおりです。

[プリント]	選択した画像をプリントします。
[全コマプリント]	カードの中の全画像をプリントします。
[マルチプリント]	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトして、プリントします。
[全コマインデックス]	カードの中の全画像を一覧にして、インデックス形式でプリントします。
[予約プリント]	プリント予約の内容に従ってプリントします。あらかじめプリント予約（☞ P 134）された画像が無いときは、選択できません。

プリントモードや各設定の内容について

使用できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって選択できる項目が異なる場合があります。
詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。

用紙を設定する

この設定内容は、プリンタの対応によって選択肢が異なります。プリンタの標準設定しか使えない場合は、設定を変更することができません。

［サイズ］ プリンタで用意されている用紙に合わせます。

［フチ］ 用紙いっぱいにプリントするか、フチをつけてプリントするかを選択します。

［分割数］ 同じ画像を 1 枚の用紙に何枚プリントするかを選択します。プリントモードで［マルチプリント］を選択したとき、この設定項目が表示されます。

プリントする画像を選ぶ

プリントする画像を選びます。選んだ画像をあとでまとめてプリント（1枚予約）したり、表示している画像をプリントすることができます。

プリント（OK） 表示している画像をプリントします。［1枚予約］をした画像が1枚でもあると、予約されている画像のみプリントされます。

1枚予約（▲） 表示している画像をプリントする予約をします。［1枚予約］をしたら、◀▶で、次に予約したい画像を選んでください。

詳細予約（▼） 表示している画像のプリントする枚数や情報を、プリントするかどうかを設定します。
☞「プリントする情報を設定する」(P 142)

9 プリントする

プリントする情報を設定する

画像をプリントする際に、日付やファイル名の情報を同時にプリントするかどうかを設定します。

［プリント枚数］　プリントする枚数を設定します。

［日付］　画像に記録されている日付情報を同時にプリントします。

［ファイル名］　画像に記録されているファイル名を同時にプリントします。

プリントする

プリントする画像や内容が決まったらプリントします。

プリント
プリント
中　止
戻る
選択
実行
OK

［プリント］　プリンタへプリントする画像のデータを転送します

［中止］　プリントをやめます。設定してある予約などはすべて失われます。予約した内容を残して続けて予約や設定をしたいときは、Ⓢを押します。一つ前の設定に戻ります。

プリントを始めてから途中で停止したいときは、ⓄⓀボタンを押します。

［続行］　プリントを続行します。

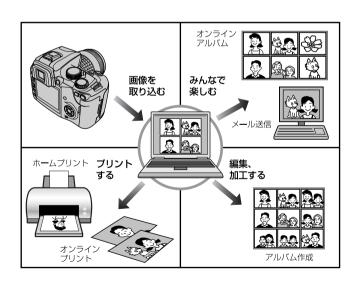
［中止］　プリントを停止します。設定した予約はすべて失われます。

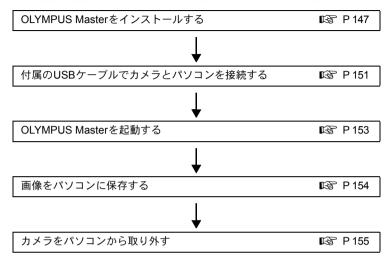
エラーコード表示が出たときは

ダイレクトプリント設定中およびプリント中にカメラの液晶モニタにエラーコードが表示されたときは、以下のように対応してください。
対処方法については、お使いのプリンタの取扱説明書もご覧ください。
その他のエラーコードが表示されたときは、「エラーコード表示」（P 160）をご確認くだささい。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
接続されていません	カメラがプリンタに正しく接続されていません。	カメラとプリンタを正しく接続しなおしてください。
用紙がありません	用紙切れです。	用紙をプリンタに補充してください。
インクがありません	インク切れです。	インクをプリンタに補充してください。
紙づまりです	用紙が詰まっています。	詰まった用紙を取り除いてください。
プリンタの設定が変更されました	プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をした。	プリントの設定中にはプリンタの操作はしないでください。
プリンタエラーです	エラーが発生しました。	カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してから再度電源を入れなおしてください。
この画像はプリントできません	他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。	パソコンなどを使ってプリントしてください。

10 パソコンに取り込む

撮影した画像をパソコンで利用してみましょう。
お好みの画像を選んでプリントするだけではありません。アプリケーションソフトを使って取り込んだ画像を日付別、目的別などに整理する、画像を編集・加工する、さらにインターネットを利用し、メールに画像を添付して送るなど、カメラの楽しみがどんどん広がります。
パソコンならではの画像の表示方法もあります。スライドショーや**HTML**アルバムを作ったり、デスクトップの壁紙にして楽しんだりできます。

操作の流れ

カメラをパソコンにUSB ケーブルで接続して、カメラのカードに保存されている画像を付属のOLYMPUS Master を使ってパソコンに取り込みます。

注意

- 電池容量にご注意ください。パソコンとの接続中（通信中）は、自動的に電源が切れません。電池の残量がなくなると、カメラは途中で動作を停止します。カメラが動作を停止すると、パソコンが誤動作したり、パソコンとカメラの通信中の場合は画像データ（ファイル）を壊すことがあります。
- 誤動作の原因になりますので、パソコンとの接続中は、絶対に電池カバーやカードカバーを開けたりしないでください。
- USBハブを経由してカメラを接続すると、ハブとパソコン間の相性によって動作が不安定になることがあります。この場合は、ハブを使用しないでパソコンとカメラを直接接続してください。
- グラフィックソフトを使っての画像処理は、必ずパソコンに取り込んでから行ってください。ソフトウェアによってはファイル（画像）がカードの中にある状態で画像処理（画像の回転など）を行うと、ファイルが壊れる可能性があります。
- USB接続でカメラのデータを取り込めないときは、PCカードアダプタなど（別売）を使うとコンパクトフラッシュやxD-ピクチャーカードで画像を取り込める場合もあります。詳しくは裏表紙に記載の「ホームページによる情報提供について」をご参照ください。

付属の OLYMPUS Master を使う

画像の編集・管理を行うために付属のCD-ROMからOLYMPUS Masterをインストールしましょう。

OLYMPUS Master とは

OLYMPUS Masterはデジタルカメラで撮影した画像をパソコンで楽しむための機能を持つアプリケーションソフトウェアです。パソコンにインストールすると、以下のようなことができます。

画像を見る・ムービーを見る
スライドショーを楽しんだり、サウンドを再生することもできます。

カメラやメディアから画像を取り込む

画像を整理・管理する
カレンダー形式で表示して画像を管理します。撮影日時やキーワードで、目的の画像をすばやくみつけることができます。

画像を編集する
画像の回転や反転、トリミング、サイズ変更などの編集ができます。

フィルタ機能、補正機能で画像を補正する

プリンタを使ってプリントする
インデックスプリントやカレンダー、ポストカードなど多彩なプリントが楽しめます。

パノラマ写真を作る
パノラマモードで撮った画像を使ってパノラマ写真を作成します。

上記以外の機能や操作方法については、OLYMPUS Master の［ヘルプ］および取扱説明書をご覧ください。

OLYMPUS Master をインストールする

お使いのパソコンのOSをご確認の上、インストールしてください。
新しいOSへの対応についてはオリンパスホームページ
（http://www.olympus.co.jp）でご確認ください。

動作環境

Windows

OS	Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
CPU	PentiumIII 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024x768ドット以上、65,536色以上

注意

- OSがプレインストールされているパソコンのみ、動作対象となります。
- Windows 2000 Professional / XPでインストールする場合は、管理者権限を所有するユーザでログインしてください。
- パソコンにQuickTime 6、Internet Explorer以上がインストールされている必要があります。
- Windows XPはWindows XP Professional / Home Editionに対応しています。
- Windows 2000は、Windows 2000 Professionalにのみ対応しています。
- Windows 98SEをお使いの場合、USBドライバが自動的にインストールされます。

Macintosh

OS	Mac OS X 10.2 以降
CPU	Power PC G3 500MHz以上
RAM	128MB以上（256MB以上を推奨）
ハードディスク容量	300MB以上
コネクタ	USBポート
モニタ	1024x768ドット以上、32,000色以上

注意

- USBポートが標準装備でないMacintoshでは、パソコンとカメラをUSB接続した場合の動作を保証いたしません。
- パソコンにQuickTime 6以上、Safari1.0以上がインストールされている必要があります。
- 次の操作を行う時は、必ずメディアを取り出す手順（ゴミ箱にドラッグ＆ドロップ）を先に行ってください。この手順を行わずに操作すると、パソコン動作が不安定になり、再起動が必要となる場合があります。
  - カメラとパソコンの接続ケーブルを抜く
  - カメラの電源を切る
  - カメラのカードカバーを開ける

インストール

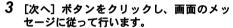
■ Windowsの場合

1 パソコンを起動してCD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

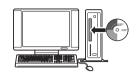
- OLYMPUS Masterインストール画面が表示されます。
- 表示されない場合は、［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックし、CD-ROMアイコンをクリックしてください。

2 ［OLYMPUS Master］ボタンをクリックします。

- QuickTime インストール用の画面が表示されます。
- QuickTimeはOLYMPUS Masterを動作させる上で必要です。すでにQuickTime 6以上がインストールされている場合は表示されません。手順4に進んでください。

3 ［次へ］ボタンをクリックし、画面のメッセージに従って行います。

- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで［同意します］をクリックします。
- OLYMPUS Masterインストールの画面が表示されます。

4 画面のメッセージに従って行います。

- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで［はい］ボタンをクリックします。

- 途中、ユーザ情報の画面が表示されたら、[名前][OLYMPUS Masterシリアル番号]を入力し、お住まいの地域を選択して[次へ]ボタンをクリックします。インストールが始まります。シリアル番号は、CD-ROMのパッケージに貼ってあるシールをご覧ください。DirectXの使用許諾画面が表示されたら契約文をお読みのうえ、[はい]をクリックしてインストールを進めます。

- Adobe Readerをインストールするかどうかを確認する画面が表示されます。Adobe ReaderはOLYMPUS Masterの取扱説明書を見るために必要です。すでにAdobe Readerがインストールされている場合は表示されません。

5 Adobe Readerをインストールする場合は、[OK]をクリックします。

- インストールしない場合は[キャンセル]をクリックします。手順7に進んでください。
- 続いて蔵衛門体験版のインストール画面が表示されます。インストールする場合は[はい]をクリックしてください。

6 画面のメッセージに従って行います。

- インストール完了画面が表示されます。

7 [完了]ボタンをクリックします。

- 最初の画面に戻ります。

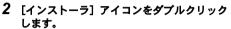
8 再起動を求める画面が表示されたら、すぐに再起動するための項目を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

10 パソコンに取り込む

■ **Macintoshの場合**

1 CD-ROMドライブにCD-ROMを入れます。

- CD-ROM のウィンドウが表示されます。
- 表示されない場合はデスクトップのCD-ROMアイコンをダブルクリックします。

2 ［インストーラ］アイコンをダブルクリックします。

- 画面のメッセージに従って行います。
  OLYMPUS Masterのインストーラが起動します。
- 途中、使用許諾契約の画面が表示されたら、契約文をお読みのうえで［続ける］ボタン、［同意します］ボタンをクリックします。
- インストール完了画面が表示されます。

3 ［終了］ボタンをクリックします。

4 CD-ROM を取り出して［再起動］をクリックします。

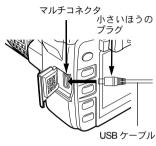
カメラをパソコンに接続する

付属のUSBケーブルで、カメラをパソコンに接続します。

1　パソコンの USB ポートに、カメラに付属のUSBケーブルを差し込みます。

- USB ポートの位置はパソコンによって異なります。パソコンの取扱説明書をご覧ください。

2　付属の USB ケーブルをカメラのマルチコネクタに差し込みます。

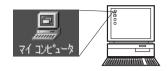
3　カメラのパワースイッチをONにします。

- 液晶モニタにUSBケーブルの接続先を選択する画面が表示されます。

4　△▽を押して［ストレージ］を選択します。OKボタンを押します。

10

パソコンに取り込む

5 パソコンがカメラを新しい機器として認識します。

- **Windows**
  はじめてカメラとパソコンを接続したときは、パソコンがカメラを自動的に認識する動作を行い、終了のメッセージが表示されます。［OK］をクリックしてメッセージを終了してください。
  カメラは［リムーバブルディスク ］として認識されます。
- **Macintosh**
  Mac OSでは､iPhotoが画像処理ソフトとしてあらかじめ設定されています。このデジタルカメラを初めて接続したときは､iPhotoが自動的に起動します。iPhotoを閉じて、OLYMPUS Masterを起動させてください。

注意

- パソコンに接続中は、カメラとしての機能は一切動作しません。

OLYMPUS Master を起動する

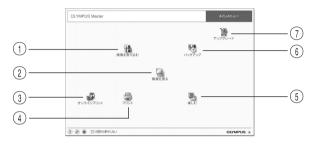
■ Windowsの場合

1 デスクトップの （OLYMPUS Master）をダブルクリックします。

- メインメニューが表示されます。

■ Macintoshの場合

1 ［OLYMPUS Master］フォルダ内の （OLYMPUS Master）をダブルクリックします。

- メインメニューが表示されます。
- 最初の起動時にユーザ情報の画面が表示されますので、［名前］［OLYMPUS Masterシリアル番号］を入力し、地域を選択してください。

① **［画像を取り込む］ボタン**
画像をカメラまたはメディアから取り込みます。

② **［画像を見る］ボタン**
ブラウズウィンドウが表示されます

③ **［オンラインプリント］ボタン**
オンラインプリントウィンドウが表示されます。

④ **［プリント］ボタン**
プリントメニューが表示されます。

⑤ **［楽しむ］ボタン**
楽しむメニューが表示されます。

⑥ **［バックアップ］ボタン**
画像をバックアップします。

⑦ **［アップグレード］ボタン**
OLYMPUS Master Plusへアップグレードできるウィンドウが表示されます。

OLYMPUS Masterを終了する

1 メインメニューで （閉じる）ボタンをクリックします。

- OLYMPUS Masterが終了します。

カメラの画像をパソコンで表示する

取り込んで保存する

カメラの画像をパソコンに保存します。

1 OLYMPUS Masterメインメニューで （画像を取り込む）をクリックします。

- 取り込み元を選択するメニューが表示されます。

2 （カメラから）をクリックします。

- 取り込み元のウィンドウが表示されます。カメラ内のすべての画像が一覧表示されます。

3 画像ファイルを選択し、［取り込み］ボタンをクリックします。

- 確認のメッセージが表示されます。

4 ［今すぐ画像を見る］ボタンをクリックします。

- ブラウズウィンドウに取り込んだ画像が表示されます。
- ブラウズウィンドウの［メニュー］をクリックすると、メインメニューに戻ります。
- カードアクセスランプが点滅している間は、絶対にカメラの電池／カードカバーを開けたりしないでください。ファイルが壊れる可能性があります。

カメラを取り外す

カメラの画像をパソコンに取り込んだら、カメラを取り外すことができます。

1 **カメラのカードアクセスランプの点滅が終わっていることを確認します。**

2 **お使いのパソコンのOSによって、次の手順を行ってください。**

■ **Windows 98SEの場合**

1) **［マイコンピュータ］アイコンをダブルクリックして、［リムーバブルディスク］を右クリックし、メニューを表示させます。**

2) **メニューの［取り出し］をクリックします。**

■ **Windows Me / 2000 / XPの場合**

1) **システムトレイに表示されている［ハードウェアの取り外し］アイコンをクリックします。**

2) **表示されるメッセージをクリックします。**

3) **［デバイスは安全に取り外すことができます］が表示されたら、［OK］をクリックします。**

■ **Macintoshの場合**

1) **デスクトップの［名称未設定］（または［NO_NAME］）アイコンをドラッグすると［ごみ箱］アイコンが［取り出し］アイコンに変わりますので、そのまま［取り出し］アイコンの上にドロップしてください。**

3 カメラからUSBケーブルを引き抜きます。

注意

- **Windows Me/2000/XPの場合：**
［ハードウェアの取り外し］をクリックした際、［カメラを停止できません］という警告画面が表示される場合があります。その場合は、カメラの画像データを読み込み中でないこと、またカメラの画像ファイルを開いていたアプリケーションが起動していないことを確認してください。確認後、［ハードウェアの取り外し］の操作を再度行い、その後ケーブルを外してください。

静止画を見る

1 OLYMPUS Masterメインメニューで（画像を見る）をクリックします。

- ブラウズウィンドウが表示されます。

2 見たい静止画のサムネイルをダブルクリックします。

サムネイル

- ビューモードに切り替わり、画像が拡大されます。
- ブラウズウィンドウの［メニュー］をクリックすると、メインメニューに戻ります。

10

パソコンに取り込む

プリントする

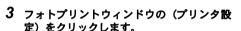
フォト、インデックス、ポストカード、カレンダーなどのプリントメニューがあります。ここではフォトプリントを例に説明します。

1 OLYMPUS Masterメインメニューで （プリント）をクリックします。

- プリントメニューが表示されます。

2 （フォト）をクリックします。

- フォトプリントウィンドウが表示されます。

3 フォトプリントウィンドウの（プリンタ設定）をクリックします。

- プリンタの設定ダイアログが表示されますので、必要に応じてプリンタの設定をします。

4 プリントするレイアウトやサイズなどを選択します。

- 日付または日時を入れて印刷するときは、［撮影日印刷］にチェックをつけて［日付］または［日時］を選びます。

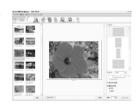
5 プリントしたい画像のサムネイルを選択し、［追加］ボタンをクリックします。

- 選択した画像がレイアウト上にプレビュー表示されます。

6 プリントする部数を設定します。

7 ［プリント］ボタンをクリックします。

- フォトプリントウィンドウの［メニュー］をクリックすると、メイン
メニューに戻ります。

OLYMPUS Master を使用せずにパソコンに画像を取り込んで保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。OLYMPUS Masterを使用せずに付属の専用USBケーブルでカメラとパソコンを接続して、画像を取り込んで保存することもできます。接続できるパソコンの環境は以下のとおりです。

Windows : Windows 98SE/Me/2000 Professional/XP
Macintosh : Mac OS 9.0-9.2/X

注意

- Windows 98SEをお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。カメラとパソコンをUSBケーブルで接続する前に、付属のOLYMPUS Master CD-ROMの以下のフォルダのファイルをダブルクリックしてください。OLYMPUS Masterをインストールするとドライバも同時にインストールされます。
（お使いのパソコンのドライブ名）：￥USB￥INSTALL.EXE
- 以下のOS、仕様についてはUSB端子を装備していても正常な動作の保証はできません。
  - Windows 95/98/NT 4.0
  - Windows 95/98からアップグレードしたWindows 98SE
  - Mac OS 8.6以下のバージョン
  - 拡張カードなどでUSB端子を増設したパソコン
  - 出荷時にOSがインストールされていないパソコンおよび自作パソコン

11 付録

オリンパスからのお願いです。

カメラを使っていて困ったとき、疑問があったとき、ぜひご一読ください。エラー発生！、トラブルあり、うまく撮影できない、カメラの保管方法がわからない、難しい用語を調べたい、などを解決します。

エラーコード表示

ファインダ内の表示	液晶モニタ内の表示	原因	こうしましょう
通常表示	カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
E Card	このカードは使用できません	カードに問題があります。	もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
P Card	書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。 再度パソコンを使って設定を解除してください。
表示なし	撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約や新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
表示なし	画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。 撮影してから再生してください。
表示なし	この画像は再生できません	選択した画像に問題があり、再生できません。または、このカメラでは再生できない画像です。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。 それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
oP Card	カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。

11

付録

ファインダ内の表示	液晶モニタ内の表示	原因	こうしましょう
F CArd	このカードは使用できません	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
表示なし	電池残量がありません	電池残量がありません。	充電してください。

故障かな？と思ったら

原因	こうしましょう	参照ページ
カメラが動かない / ボタンを押しても動作しない		
電源が切れている	カメラを長く操作していないと、カメラの電源が自動的に切れます。パワースイッチをONにしてください。	–
スリープモードになっている	シャッターボタンを半押ししてください。	P 125
電池残量が少なくなった	充電池は充電してください。リチウム電池のときは新品電池に交換してください。	–
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	–
パソコンに接続している	パソコンと接続中はカメラは動作しません。また［カメラコントロール］モードでは、別売のソフトウェアOLYMPUS Studioが必要です。	P 126

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押しても撮影ができない		
電池残量が少なくなった	充電池は充電してください。リチウム電池のときは新品電池に交換してください。	–
苦手被写体でAFができない	MFにして、手動でピント合わせをするか、フォーカスロックを使ってピントを合わせてから撮影してください。	P 19 P 65
カードに記録中	連続撮影でカメラの一時メモリーが一杯になると撮影できません。	–
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、ϟマークの点滅が終わってから撮影してください。	P 47
カード容量がいっぱいになった	新しいカードに交換するか、不要な画像を消去してください。画像を消去する前に、大切な画像はパソコンに取り込んでください。	P 107 P 154
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（「電池残量がありません」と表示された後に液晶モニタが消灯した）	電池を充電してください（カードアクセスランプの点滅が終わるまでお待ちください）。	–
カードに問題がある	エラー表示でご確認ください。	P 160
ファインダが見にくい		
視度調整をしていない	AFフレームがはっきりと見えるように調整してください。	–
レンズやファインダが結露*している	電源を切ってしばらくおき、カメラ全体が環境温度に馴染んで乾燥するのを待ってからお使いください。	–
画像ファイルに記録される日付が正しくない		
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P 130
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で長く放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P 130
電源を切っても設定が解除されない		
このカメラの仕様です	電源を切っても設定はクリアされません。［カスタムリセット設定］で［リセット］を選択して、カメラの電源を切ってください。	P 110

原因	こうしましょう	参照ページ
ピントが合わない		
被写体が近すぎる	お使いのレンズの最短撮影距離まで下がってから撮影してください。	–
オートフォーカス（AF）の苦手な被写体である	MFに設定して手動でピントを合わせるか、フォーカスロックを使って撮影してください。	P 19 P 65
被写体が暗い	メニューで［AFイルミネータ］を［ON］にして、フラッシュをポップアップしてください。	P 67
レンズやファインダが結露*した	電源を切ってしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。	–
撮影した画像のピントが合っていない		
AFが苦手な被写体を撮影した	マニュアルフォーカスにして手動でピントを合わせるか、フォーカスロックを使ってピントを合わせてください。	P 19 P 65
シャッターボタンを押すときに、カメラがブレてしまった	ブレた画像はピンぼけのように見えます。カメラを正しく構え、静かにシャッターボタンを押してください。望遠レンズを使う場合には特にご注意ください。	–
暗いところで、ISOをオートにしていた	シャッター速度が遅くなると手ブレが起きやすくなります。フラッシュを使うか、ISO感度を高くしてください。三脚の使用も効果的です。	P 42 P 74
［レリーズ優先］に設定されていた	このカメラでは、シャッターチャンスを逃さないために［レリーズ優先］設定が可能です。［レリーズ優先］設定がされていると、ピント合わせの途中でもシャッターを切ることができます。［レリーズ優先］を［OFF］にするか、ファインダーの合焦マークの点灯を確認してからシャッターボタンを押し込んでください。	P 67
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	P 167

* 結露 : 外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。
　カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影した画像が明るすぎる		
中央部に暗いものがある	中央部に暗いものがあると、測光方式によらず周辺部が明るくなります。露出補正をアンダー（−）側に設定してください。	P 71
ISOが高感度設定になっている	ISOをオートまたは100に設定してください。それでも改善されない場合には、レンズに適合した市販のNDフィルターをお使いください。	P 74
A（M）モードで明るい絞り値が設定されている	絞り込んでください。	P 33 P 37
S（M）モードで遅いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を速くしてください。	P 35 P 37
撮影した画像が暗い		
逆光で小さな被写体を撮影した	測光方式をスポットに設定して撮影してください。または、フラッシュをお使いください。	P 42 P 69
中央部に明るいものがある	中央部に明るいものがあると、測光方式によらず全体が暗くなります。露出補正をオーバー（+）側に設定してください。	P 71
A（M）モードで暗い絞り値が設定されている	絞り値を開放にしてください。	P 33 P 37
S（M）モードで速いシャッター速度に設定されている	シャッター速度を遅くしてください。	P 35 P 37
室内で撮影した画像の色がおかしい		
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。ワンタッチホワイトバランスを使うと、なお効果的です。	P 82
ホワイトバランスの設定をまちがえた	照明に合わせて再度ホワイトバランスを設定してください。	P 79
画像のハレーション部に不自然な色がつく		
紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	• 市販のUVフィルターを使用します。全体の色再現バランスを崩す場合がありますので、左記の条件下のみでのご使用をおすすめします。 • 画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、PaintShopProなど）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行い、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	–

原因	こうしましょう	参照ページ
画像の左上が明るく写る		
長秒時の撮影では、CCD内部の駆動回路の発熱で発生することがあります。	［ノイズリダクション］を［ON］にして、撮影してください。	P 87
液晶モニタ上で再生できない		
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	–
カードに異常がある	エラー表示でご確認ください。	P 160
カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
ビデオケーブルが正しく接続されていない	説明書にしたがって、正しくケーブルを接続し直してください。	P 100
カメラのビデオ出力設定があっていない	カメラのビデオ出力を使用する地域のテレビ映像方式に合わせてください。	P 127
テレビの入力設定が間違っている	テレビをビデオ映像入力モードに設定してください。	–
液晶モニタが見にくい		
モニタ輝度調整が適切でない	メニューでモニタの明るさを調整してください。	P 125
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	–
カメラがパソコンに認識されない		
電源が切れている	パワースイッチをONにしてください。	–
USBドライバーが正しくインストールされていない	OLYMPUS Masterをインストールしてください。	P 147
カメラコントロールモードになっている	メニューの［USB接続モード］を［ストレージ］にします。［オート］に設定すると、USBケーブルで接続するたびに設定を選択する画面が表示されます。	P 126

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り7年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⓌマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

カメラのお手入れと保管

■ カメラのお手入れ

カメラのお手入れの際は、カメラの電源を切り、電池を取り外します。

カメラの外側

→柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ

→柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ・ミラー・フォーカシングスクリーン

→市販のレンズブロアーでほこりを吹き払います。レンズはレンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

■ カメラの保管

- 長期間、カメラを使用しないときは、電池とカードを外してください。風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 電池は定期的に取り替えて、カメラの機能をテストしてください。

CCD のクリーニングとチェック

このカメラはCCDにゴミが付着しない構造にするとともに、CCD前面に付着したゴミやホコリを超音波振動により、払い落とす機能を備えています（ダストリダクション機能）。ダストリダクション機能は、パワースイッチをONにするときに働きます。またCCDと画像処理回路のチェックを行うピクセルマッピングを働かせる際にも同時に作動します。カメラの電源を入れるときはダストリダクションが働きますので、カメラをできるだけ正位置にしてください。ダストリダクションが動作中はSSWFランプが点滅します。☞「各部の名称」(P 183)

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- 薬品を扱うような場所での保管は、腐食などの原因になるため避けてください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。
- 長期間使用しなかったカメラは、使用前に各部の点検をしてください。海外旅行などの大切な撮影の前には、必ず撮影をしてカメラが正常に動作することを確かめてください。

CCD のゴミの除去 — クリーニングモード

CCDにゴミやホコリが付着すると、撮影した画像に黒い点が写ることがあります。このような場合は、オリンパスのサービスステーションへクリーニングをお申し付けください。撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいものです。やむなくご自身でクリーニングされる場合は、以下の手順と注意をお守りください。
電池をお使いの場合、クリーニング中に電池残量がなくなると、シャッターが閉まり、シャッター幕やミラーの破損の原因になります。電池残量にご注意ください。

1 レンズを取り外します。

2 パワースイッチをONにします。

3 メニュー ▶ ［2］ ▶ ［クリーニングモード］

4 ▷を押して、OKボタンを押します。

- クリーニングモードになります。

5 シャッターボタンを全押しします。

- ミラーが上がり、シャッター幕が開きます。

6 撮像素子をクリーニングします。

- ブロアー（市販品）で注意しながら、撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。

7 電源を切ってクリーニングを終えるときは、ブロアーがシャッター幕にはさまらないようにしてください。

- カメラの電源が切れると、シャッター幕が閉じ、ミラーが下がります。

注意

- ブロアー（市販）が撮像素子に触れないようにしてください。もし、ブロアーが撮像素子に触れると傷がつきます。
- ブロアーをレンズマウントより中に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕が破損します。
- ブロアー以外のものは使用しないでください。高圧でガスなどを吹き付けると、撮像素子の表面でガスが凍結して傷がつきます。

画像処理機能をチェックする — ピクセルマッピング

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分以上時間を空けた後に実行します。

1 メニュー ▶［ 2］▶［ピクセルマッピング］

2 を押して、OKボタンを押します。

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとメニューに戻ります。

注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが以下の内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお問い合わせいただく場合は、必ずご記入ください。
- 問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
  パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくお知らせください。

- お名前（フリガナ）
- 連絡先：郵便番号
  住所（自宅か会社のいずれかを明記願います）
  電話番号／**FAX**
  E-mail
- 製品名（型番)：**E-500**
- シリアル番号（製品底面に記載されています)：
- お買い上げ日：
- 問題が発生したときの症状（表示されたメッセージ、症状の再現性など）：

※ 以下は、カメラをパソコンと接続してご使用、またはソフトウェアをご使用の場合にお確かめください。

- ご使用のパソコンの種類：
- パソコンメーカー・型番等
- メモリの容量　ハードディスクの空き容量：
- **OS**名とバージョン：
- （**Mac OS**）コントロールパネルや機能拡張の内容
- （**Windows**）コントロールパネルーシステム―デバイスマネージャーの内容
- その他接続されている周辺機器名：
- 問題のご使用アプリケーションソフト名とバージョン：
- 問題のご使用弊社ソフト名とバージョン：

11
付録

用語解説

50音順

圧縮率
画像などのデータの内容を一部省略してファイルサイズを小さくすることを、圧縮するといい、圧縮によって小さくなる割合を圧縮率といいます。実際の圧縮率は、画像によって変わるので、このカメラで画質として設定する圧縮率はあくまで目安とするためのものです。

一眼レフ方式（single lens reflex camera）
撮影用レンズとファインダ用レンズをひとつのレンズで行うカメラ。カメラのなかに反射ミラーを置き、レンズを通った被写体の画像をそこに反射させて、ピントグラスに到達させます。そこでピントが合うようにしています。ファインダを通して見た構図やピントで撮影されます。

色温度
光源の色を表すための指標。絶対温度の単位K（ケルビン）で表します。プランクの放射則にしたがった理想的な黒体を熱していくと、温度によって、暗赤色から、オレンジ、黄色、白、青白色と、発光する色が変わっていくので、その色を絶対温度で示すことができます。ただし、蛍光灯のように実際の温度と色温度が異なることもあります。プリセットホワイトバランスのときは、色温度を使って光源の色を設定します。

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ（ピクセルサイズ）
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640x480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640×480のときではモニタ全体に表示されますが、1024×768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

カラー空間
3つ以上の座標値で色を表すモデルのこと。色空間は、色のコード化と可視化に複数の手法を用いる場合があります。sRGB、Adobe RGBがそれにあたります。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいます。

けられ

撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

絞り

レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

スポット測光

ファインダの中央のごく一部を測光する測光方式。被写体の特定の部分に露出を合わせることができるため、明暗差の大きい被写体を撮影するときなどに適しています。

スリープモード（待機状態）

電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

中央重点測光

画面中央部の被写体を中心に広い範囲で測光する測光方法。通常の撮影に適していますが、画面の中に極端に明るい所や暗い所があると、全体の露出が、そちらに影響されることがあります。

デジタル ESP 測光（electro selective pattern）

49エリアを個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

被写界深度

ある距離に焦点を合わせたとき、その距離にある被写体がはっきりと写るのと同時に被写体の前後でも、焦点が合っている範囲があります。このはっきりと写っている被写体の前後の奥行のことをいいます。

露出

画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

アルファベット順

AE （automatic exposure）

自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッター速度をカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッター速度をカメラに任せるAモード、シャッター速度を決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッター速度の両方を決める必要があります。

A モード（aperture priority mode）

絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AUTO モード

プログラムAE露出（**P**モード参照）に加えて、暗いときにはフラッシュが自動的にポップアップするモード。

CCD（charge coupled device）

レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）

電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）

デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）

露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO

国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。通常「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）

カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

M モード（manual mode）

シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC / PAL（National Television Systems Committee / Phase Alternating Line）

テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

PictBridge

異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

P モード（program mode）

プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

RAW データ

未加工のデータ。ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない、撮影したままのデータのことをいいます。当社独自のファイルなので、画像として表示するには専用のソフトが必要です。一般のソフトウェアで表示したり、DPOFでプリントすることはできません。拡張子は「.ORF」。

S モード（shutter speed priority mode）

シャッター速度優先AEモード。シャッター速度を自分で決め、カメラがシャッター速度に従って絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF（tagged image file format）

モノクロやカラーの画像データを保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。このカメラでは圧縮しない画像のフォーマットに採用しています。

TFT（thin-film transistor）

カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL（through-the-taking-lens）方式

カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

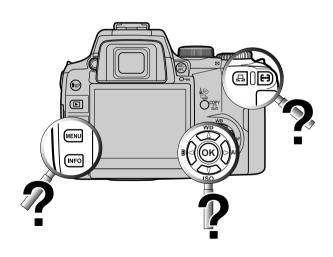
TTL 位相差検出方式

位相差をもとに被写体までの距離を測り、焦点を合わせる方式。

12 資料

1章から11章で説明したカメラのすべての機能を網羅しています。
カメラのボタンや部位の名前、液晶モニタに表示されるアイコンの名前と意味、メニューの一覧など、必要に応じてご覧ください。
索引もありますので、目次からは見つからない機能や項目が記載されているページを探すときにお使いください。また、「各部の名称」や「メニュー一覧」も索引の役目をはたしますので、有効にご活用ください。

メニュー一覧

撮影メニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
1	カードセットアップ	全コマ消去/ フォーマット		P 18 P 107
	カスタムリセット設定	リセット		P 110
		リセット1	登録 / クリア	
		リセット2	登録 / クリア	
	仕上がり	VIVID★ / NATURAL / FLAT / モノトーン / セピア		P 85
	階調	ハイキー / 標準★ / ローキー		P 86
	画質モード	HQ★ / SQ / RAW+SHQ / RAW+HQ / RAW+SQ / RAW / TIFF / SHQ		P 22
	露出補正	-5.0 ～ 0.0★ ～ +5.0		P 71
	ノイズリダクション	OFF★ / ON		P 87
	WBモード	オート★	B7～±0～ R7	P 79
			G7～±0～M7	
		5300K	B7～±0～ R7	
			G7～±0～M7	
		6000K	B7～±0～ R7	
			G7～±0～M7	
		7500K	B7～±0～ R7	
			G7～±0～M7	
		3000K	B7～±0～ R7	
			G7～±0～M7	
		4000K	B7～±0～ R7	
			G7～±0～M7	
		4500K	B7～±0～ R7	
			G7～±0～M7	
		6600K	B7～±0～ R7	
			G7～±0～M7	
			B7～±0～ R7	
			G7～±0～M7	
		CWB	2000K～14000K	
	ISO感度	オート★ / 100～1600		P 74
	測光	★	AF連動ON / AF連動OFF	P 69
		HI		
		SH		

★初期設定

12 資料

タブ	機能	選択肢	参照ページ
2	フラッシュ	P / A / / / / / : AUTO★ / ◎ / ⚡ / Ⓕ / ◎SLOW / ⚡SLOW / ⚡SLOW2 / ⚡FULL / ⚡1/4 / ⚡1/16 / ⚡1/64	P 46
		S / M : ⚡★ / ◎⚡ / Ⓕ / ⚡SLOW2 / ⚡FULL / ⚡1/4 / ⚡1/16 / ⚡1/64	
	フラッシュ補正	-2.0〜0.0★〜+2.0	P 48
		単写★ / 連写	P 54
		12S / 2S	P 55
		0S / 2S	P 57
	AF方式	S-AF★ / C-AF / MF / S-AF+MF / C-AF+MF	P 62
	[•••]	オート★/ [•] / [•] / [•]	P 61
	AE BKT	OFF★ / 3F 0.3EV / 3F 0.7EV / 3F 1.0EV	P 75
	WB BKT	R-B / G-M: OFF★ / 3F 2STEP / 3F 4STEP / 3F 6STEP	P 84
	FL BKT	OFF★ / 3F 0.3EV / 3F 0.7EV / 3F 1.0EV	P 49
	MF BKT	OFF★ / 5F 1STEP / 5F 2STEP / 7F 1STEP / 7F 2STEP	P 66
	低振動モード	OFF★ / 1〜30秒	P 88

★初期設定

再生メニュー

タブ	機能	選択肢	参照ページ
▶	自動再生	1★ / 4 / 9 / 16 / 25	P 98
	回転再生	OFF / ON★	P 99
	編集	RAW編集	P 101
		JPEG/TIFF編集: モノクロ 作成/ セピア作成 / 赤目補正 / 鮮やかさ調整 / リサイズ	
	プリント予約	1コマ予約 / 全コマ予約	P 134
	全コマコピー	実行 / 中止	P 105

★初期設定

カスタムメニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
1	ISO感度ステップ	1/3EV★ / 1EV		P 116
	ISO感度拡張	OFF★ / ON+NF / ON		P 116
	ISOリミッター	OFF★ / 100 / 200 / 400 / 800		P 116
	露出ステップ	1/3EV★ / 1/2EV / 1EV		P 115
	全WBモード補正	ALL SET	B7～±0★～R7	P 117
			G7～±0★～M7	
		ALL CLEAR	実行 / 中止	
	HQ設定	1/4 / 1/8★/ 1/12		P 22
	SQ設定	ピクセルサイズ	3200x2400 / 2560x1920 / 1600x1200 / 1280x960★ / 1024x768 / 640x480	P 22
		圧縮率	1/2.7 / 1/4 / 1/8★ / 1/12	
	内蔵フラッシュ拡張	OFF★ / ON		P 117
	+連動	OFF★ / ON		P 48
	同調速度設定	1/60～1/180		P 118
	自動ポップアップ	OFF / ON★		P 118
	ダイヤル	P	Ps★ / 露出補正	P 119
		M	シャッタ速度★ / 絞り	
	AEL/AFLモード	S-AF	mode1★～mode3	P 113
		C-AF	mode1★～mode4	
		MF	mode1★～mode3	
	AEL/AFL MEMO	ON★ / OFF		P 115
	AEL測光モード	★ / / / HI / SH		P 115
	ワンプッシュ消去	OFF★ / ON		P 122
	RAW+JPEG消去	JPEG / RAW / RAW+JPEG★		P 122
	ボタン機能	ワンタッチWB / 試し撮り撮影 / マイモード撮影 / プレビュー		P 120
	マイモード設定	マイモード1 / マイモード2		P 120
	フォーカスリング	★/		P 121
	AFイルミネータ	OFF / ON★		P 67
	レンズリセット	OFF / ON★		P 121
	レリーズ優先S	OFF★/ ON		P 67
	レリーズ優先C	OFF / ON★		P 67

★初期設定

12 資料

セットアップメニュー

タブ	機能	選択肢		参照ページ
2	日時設定			P 130
	記録カード選択	CF / xD		P 18
	ファイルネーム	オート★ / リセット		P 123
	ファイルネーム編集	sRGB	OFF★ / A-Z / 0-9	P 124
		AdobeRGB		
	モニタ調整	Lo -7～0★ ～ Hi +7		P 125
	(言語)	日本語 / ENGLISH		P 127
	ビデオ出力	NTSC ★/ PAL		P 127
	ビープ音	OFF / ON★		P 125
	レックビュー	OFF★ / 1秒～20秒		P 124
	スリープ時間	OFF / 1分★ / 3分 / 5分 / 10分		P 125
	自動電源OFF	OFF / 4時間★		P 128
	ボタンON保持時間	HOLD / 3秒★ / 5秒		P 128
	起動画面	OFF★ / ON		P 129
	パネル配色	配色1★ / 配色2		P 129
	実行優先設定	実行優先 / 中止優先★		P 121
	USB接続モード	オート★ / ストレージ / カメラコントロール / かんたん/ カスタム		P 126
	カラー設定	sRGB ★/ AdobeRGB		P 88
	シェーディング補正	OFF★ / ON		P 86
	ピクセルマッピング			P 169
	クリーニングモード			P 168
	バージョン			P 129

★初期設定

12

資料

撮影モード別使用可能な機能

<table>
<tr><th colspan="2">機能</th><th>AUTO</th><th>P</th><th>A</th><th>S</th><th>M</th><th></th><th>SCENE</th></tr>
<tr><td colspan="2">絞り値設定</td><td>–</td><td>✓</td><td>✓</td><td>–</td><td>✓</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td colspan="2">シャッター速度</td><td>–</td><td>✓</td><td>–</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td colspan="2">バルブ撮影</td><td>–</td><td colspan="3">–</td><td>✓</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td colspan="2">露出補正</td><td>–</td><td colspan="3">✓</td><td>–</td><td>✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">画質設定</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>✓（ は除く）</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ撮影</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="8">フラッシュモード</td><td>AUTO</td><td>✓</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">–</td><td>✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td>👁</td><td>✓</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">–</td><td>✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td>👁SLOW</td><td>✓</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">–</td><td>✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td>⚡SLOW</td><td>–</td><td colspan="2">✓</td><td colspan="2">–</td><td>✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td>👁⚡</td><td>✓</td><td colspan="2">–</td><td colspan="2">✓</td><td>–</td><td>–</td></tr>
<tr><td>⚡SLOW2</td><td>–</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td>⚡</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td>⊘</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">カスタムリセット設定</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">仕上がり</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">階調</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ノイズリダクション</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">ホワイトバランス設定</td><td>✓</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ補正</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">測光</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">連写</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">セルフタイマー</td><td>✓</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">リモコン</td><td>✓</td><td colspan="6">✓</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFモード選択</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFターゲットマーク選択</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">AE BKT撮影</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">WB BKT撮影</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">FL BKT撮影</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">MF BKT撮影</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">低振動モード</td><td>✓</td><td colspan="5">✓</td><td>–</td></tr>
</table>

✓：使用可　　–：使用不可

機能	AUTO	P	A	S	M		SCENE
ISOステップ	✓	✓					–
ISO感度拡張	✓	✓					–
ISOリミッター	✓	✓					–
露出ステップ	✓	✓					✓ （ は除く）
全WBモード補正	✓	✓					✓ （ は除く）
HQ設定	✓	✓					–
SQ設定	✓	✓					–
内蔵フラッシュ拡張	✓	✓					–
+ 連動	✓	✓					–
同調速度設定	✓	✓					–
自動ポップアップ	✓	✓					–
ダイヤル	✓	✓					–
AEL/AFLモード	✓	✓					–
AEL/AFLメモ	✓	✓					–
AEL測光設定	✓						
ワンプッシュ消去	✓						
RAW+JPEG消去	✓						
カスタム設定	✓						
マイモード設定	✓						
フォーカスリング	✓						
AFイルミネータ	✓						
レリーズ優先S	✓						
レリーズ優先C	✓						
日時設定	✓						
カード選択	✓						
ファイルネーム	✓						
ファイルネーム編集	✓						
モニタ調整	✓						
言語選択	✓						
ビデオ出力	✓						
ビープ音	✓						

✓：使用可　　–：使用不可

12

資料

<table>
<tr><th>機能</th><th>AUTO</th><th>P</th><th>A</th><th>S</th><th>M</th><th></th><th>SCENE</th></tr>
<tr><td>レックビュー</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>スリープ時間</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>自動電源OFF</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>ボタンON保持時間</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>起動画面</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>パネル配色</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>実行優先設定</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>USB接続モード</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>カラー設定</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>シェーディング補正</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>ピクセルマッピング</td><td colspan="7">✓</td></tr>
<tr><td>クリーニングモード</td><td colspan="7">✓</td></tr>
</table>

✓：使用可　　－: 使用不可

各部の名称

カメラ

AEL/AFL ボタン ☞ P 73
O┳（プロテクト）ボタン ☞ P 106

ファインダ

視度調整ダイヤル

⚡（フラッシュ）スイッチ ☞ P 47

▶（再生）ボタン ☞ P 90

🗑（消去）ボタン ☞ P 107

MENUボタン ☞ P 15

INFO（情報表示）ボタン ☞ P 95

液晶モニタ ☞ P 12、P 186、P 187

（リモコン / セルフタイマー / 連写）ボタン ☞ P 54、P 55、P 57

COPY（コピー /プリント）ボタン ☞ P 105 、P 139

（ワンタッチWB）ボタン ☞ P 39 、P 82、P 120

[···]（AFフレーム選択）ボタン ☞ P 61

WB（ホワイトバランス）ボタン ☞ P 79

AF（フォーカスモード）ボタン ☞ P 62

OK ボタン ☞ P 15

ISOボタン ☞ P 74

カードアクセスランプ ☞ P 155

（測光）ボタン ☞ P 69

十字ボタン ☞ P 15

12 資料

モードダイヤル ☞ P 10

ホットシュー ☞ P 50

コントロールダイヤル
☞ P 13、P 119

撮像面位置マーク
（ピント合わせなどで被写体までの距離が必要なときはこの位置から測定してください。）

パワースイッチ

（露出補正）
ボタン ☞ P 71

シャッターボタン
☞ P 19

SSWFインジケータ ☞ P 167

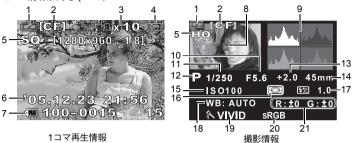
ファインダ内の表示

	項目	表示例	参照ページ
1	AFフレーム	[ ] ✣ [ ]	P 61
2	絞り値	F5.6	P 33 - 37
3	シャッター速度 画質モード	250	P 34 - 37
4	合焦マーク	●	P 20
5	フラッシュ	ϟ	P 47
6	ホワイトバランス	WB	P 79
7	AEロック	AEL	P 73
8	撮影可能枚数（画質モード設定中） 露出補正値（露出補正設定時）	12 0.7	– P 71
9	測光モード	, ,	P 69
10	電池残量	, （点滅）	–
11	露出モード	**P**, **Ps**, **A**, **S**, **M**	P 31 - 37

液晶モニタ内の表示（再生時のみ）

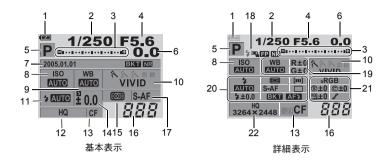
INFO（情報表示)ボタンを使って表示を切り替えることができます。

☞「情報表示」(P 95)

1コマ再生情報　　撮影情報

	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	,	–
2	使用カード	xD, CF	P 18
3	プリント予約 プリント枚数	x10	P 132
4	プロテクト		P 106
5	画質モード	RAW, TIFF, SHQ, HQ, SQ	P 23
6	日時	05. 12. 23. 21：56	P 130
7	ファイル番号 コマ番号	100-0030 30	P 95
8	AFフレーム		P 61
9	ヒストグラム		P 96
10	絞り値	F2.8	P 33 - 37
11	シャッター速度	1/4000	P 34 - 37
12	露出モード	**P**, **A**, **S**, **M**, , , , ,	P 26
13	露出補正	0.7	P 71
14	焦点距離*	117mm	P 201、203
15	ISO感度	AUTO, ISO 100, ISO 200, ISO 400	P 74
16	測光モード	, , , HI, SH	P 69
17	フラッシュ補正	0.5	P 48
18	ホワイトバランス	WB : AUTO	P 79
19	仕上がりモード	VIVID	P 85
20	カラー設定	sRGB, Adobe RGB	P 88
21	ホワイトバランス補正	R: +3, G: -2	P 83

* 焦点距離は1mm単位で表示されます。

スーパーコンパネ画面表示

基本表示　　詳細表示

	項目	表示例	参照ページ
1	電池残量	,	—
2	シャッター速度	1/2000	P 34 - 37
3	露出補正インジケータ 露出レベルインジケータ フラッシュ発光量補正レベルインジケータ		P 72 P 37 P 48
4	絞り値	F2.8	P 34 - P 37
5	露出モード	AUTO, P, A, S, M, , , , ,	P 26
6	露出補正値	+2.0	P 71
7	日時 オートブラケット撮影 ノイズリダクション	’05.12.23, 21:56 BKT NR	P 130 P 41 P 87
8	ISO感度	AUTO, 100, 200, 400	P 74
9	ホワイトバランス	,	P 79
10	仕上がりモード	VIVID	P 85
11	フラッシュモード	,	P 46
12	画質モード	RAW+SHQ	P 23
13	使用カード	xD, CF	P 18
14	フラッシュ補正値	+2.0	P 48
15	測光モード	, , , HI, SH	P 69
16	撮影可能枚数	135	–
17	フォーカスモード	S-AF	P 62
18	スーパー FP発光 ノイズリダクション	FP NR	P 52 P 87

12
資料

19	ホワイトバランス ホワイトバランス補正	, R+3, G-2	P 79 P 83
20	フラッシュモード フラッシュ補正値 測光モード フォーカスモード AFフレーム セルフタイマー / リモコン / 連写 オートブラケット撮影 AFイルミネータ	 +2.0 , , **S-AF** , , BKT AF	P 45 P 48 P 69 P 62 P 61 P 54 - 57 P 41 P 67
21	カラー設定 シャープネス コントラスト 彩度 階調	sRGB, Adobe RGB +2 +2 RGB+2 , H, L	P 88 P 85 P 85 P 85 P 86
22	画質モード 画像サイズ	RAW+SHQ 1280×960	P 23

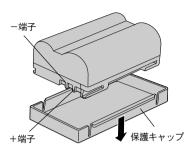
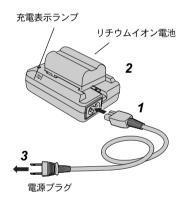
13 付属品の取扱説明書

お買い上げの商品の付属品の取扱説明書はこちらをお読みください。
お買い上げの商品により付属品が異なります。付属品は別売りでお買い求めいただけますが、一部付属品は別売していないものもありますのでご了承ください。

- リチウムイオン電池 BLM-1 / リチウムイオン電池充電器 BCM-2
- リチウム電池ホルダー LBH-1
- ZUIKO DIGITAL交換レンズ
  ZUIKO DIGITAL 14-45mm F3.5-5.6
  ZUIKO DIGITAL 17.5-45mm F3.5-5.6

充電のしかた

1 **電源コードを充電器にしっかり接続します。**

2 **電池の保護キャップを外し、図のように充電器に（浮き上がり等なく）のせ、押し込みます。**

3 **電源プラグをコンセントにしっかり差し込みます。**

4 **充電ランプが赤色に点灯して充電を開始します。緑色になると充電完了です。充電が完了したら、必ず電源コードをコンセントから抜いて、その後に電池を取り出してください。**

充電ランプの状態	充電器の状態
消灯	電池未接続
赤点灯	充電中
緑点灯	充電完了
赤点滅	充電エラー（タイムアウト•温度異常）*
赤点灯	温度保護待機中

＊ 以下の場合は電源コードをコンセントから抜いてオリンパス岡谷修理センターにご相談ください。
- 10時間以上たっても充電が完了しない。
- 電池を正しく取り付けているのに赤点滅する。

安全上の注意

本説明書では、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を絵表示とともに記載しています。絵表示の意味は次のようになっています。絵表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **危険**	人が死亡または重症を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	人が障害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 危険

- リチウムイオン充電器BCM-2（以下充電器と記載）はリチウムイオン電池BLM-1（以下電池と記載）の充電専用です。乾電池・他の指定外充電池を充電すると発火・発熱・破裂・漏液の原因となります。
- 電池の＋－端子を金属等でショートさせないでください。
  持ち運び・保管の際には付属の保護キャップで電池の端子部分を覆ってください。キャップを付けない状態でバッグ等に入れて持ち運び・保管すると危険です。
- 損傷・液漏れ等の異常のある電池や水にぬれている電池を充電しないでください。

- 電池の液が目に入った場合は、こすらず、すぐ水道水等のきれいな水で充分に洗い流し、ただちに医師の治療を受けてください。失明の原因となります。
- 電池の＋－を逆にして充電しないでください。電池が充電器にうまく入らない場合は、無理に押し込まないでください。火災・発火・発熱・破裂・漏液・破損の原因になります。
- 電池・充電器にハンダ付けしたり、修理・変形・改造・分解をしないでください。
- 水・雨水・海水・ペットの尿等で濡らさないでください。濡れた状態・濡れた手では使用しないでください。風呂場等の湿気の多い場所では使用しないでください。
- 直射日光下や車のダッシュボードやストーブのそば等高温になる場所で使用・充電・保管をしないでください。
- 電池・充電器は乳幼児の手の届かない場所で使用・保管してください。乳幼児が誤って電池を飲み込むと危険です。万一飲み込んだ場合はただちに医師の治療を受けてください。
- 布団で覆う等、熱がこもるような状態で充電しないでください。
- 可燃性ガスの雰囲気の中で使用しないでください。引火による爆発・火災の原因となります。
- 充電器を直流電源等充電器以外の用途に使用しないでください。
- 充電器に針金等の金属物を差し込まないでください。火災・発火・発熱・感電の原因になります。
- 充電器は必ず本説明書指定の電源電圧でご使用ください。日本国内では家庭用コンセントAC100Vに接続してご使用ください。
- 付属している充電器指定の電源コード以外は使用しないでください。
- 電源プラグは確実に根元までコンセントに差し込んでください。中途半端に差し込んだ状態では使用しないでください。

⚠ 警告

- 電池に強い衝撃を与えたり、投げつけたり、傷をつけないでください。火災・発火・発熱・破裂・漏液の原因となります。
- 電子レンジや高圧容器に入れないでください。電池の漏液・発火・発熱・破裂の原因となります。
- 電池が漏液したり、異臭がするときはただちに火気より遠ざけてください。漏液した電解液に引火し、発煙、発火、破裂の原因となります。

- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、ただちに水道水等のきれいな水で洗い流してください。医師に相談してください。皮膚傷害をおこす原因になります。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。火災・発火・発熱・破裂の原因となります。
- 電池をリサイクルまたは廃棄するときは付属の保護キャップを付けてテープで止めるか、全ての端子部をセロテープ等で貼り、絶縁してください。ショートすると発火・発熱・破裂の原因となります。
  リサイクルする場合はお近くのリサイクル協力店へお持ちください。廃棄する場合はお住まいの自治体の規則に従い正しく廃棄してください。
- 充電中の電池・充電器に長時間触れないでください。低温やけどの原因となります。
- 充電器・電源コード・電池が落下等によって破損している状態では使用しないでください。内部が露出したときは、露出部に手を触れないでください。感電・けがの原因となります。電源プラグを抜いて、使用しないでください。修理は販売店またはオリンパス岡谷修理センターに依頼してください。
- 発熱・発煙・異臭・漏液・変色・変形その他の異常を見つけたときは、ただちに電源プラグを抜いて使用しないでください。そのままご使用になりますと、火災・発火・発熱・破裂の原因となります。修理は販売店またはオリンパス岡谷修理センターに依頼してください。
- 電池は乳幼児の手の届かない場所で使用・保管してください。お子様が使用する際には、保護者が適切な使用方法を充分説明をして使用中も注意してください。怠ると感電・けが・誤飲の原因になります。

⚠ 注意

- 電池・充電器は指定された機器以外には使用しないでください。
- 24時間以上にわたる連続充電はしないでください。発火・発熱・破裂・漏液の原因となります。
- 所定の充電時間を超えて10時間以上たっても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。火災・発火・発熱・破裂の原因となります。販売店またはオリンパス岡谷修理センターにご相談ください。
- カメラを長時間使用した後は、電池が熱くなっていますので、すぐに取り出さないでください。やけどの原因となります。
- ぐらついた台の上や、傾いたところ等、不安定な場所に置かないでください。落下して、故障やけが等の原因になります。
- 充電器に電池を取り付けた状態で強く振ったりしないでください。電池が飛び出すと危険です。

- 充電器・電源コードの上に重いものをのせたりしないでください。また、テレビの上等落下しやすい場所で使用・保管しないでください。破損・けがの原因になります。
- ほこり・湿気の多い場所で保管・使用しないでください。電源プラグはほこりを取り除いてからコンセントに差し込んでください。
- 極端に寒いところや暑いところでの充電はやめてください。充分に充電するためには、周囲温度が10℃～30℃が最適です。電池性能低下の原因になります。
- 充電する時以外は、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、コード部分を引っ張らず必ずプラグ部分を持って抜いてください。また、コードを無理に曲げたり引っ張ったり、重い物をのせたりしないでください。電源コードが破損し、発火・発熱・感電の原因となります。

ご使用上の注意

■ お買い上げ時の電池について

- 電池は未使用時も自己放電します。お買い上げの電池は必ず充電してからご使用ください。また、長時間ご使用にならなかった電池も必ず再充電してからご使用ください。
- ご使用前に電池の端子が汚れていないことを確認してください。汚れていると接触不良により充電が正常にできなかったり、使用時間が短くなる原因になります。

■ お手入れのしかた

- 本体・端子などの汚れは乾いた柔らかい布で拭いてください。濡れた雑巾等で拭くと故障の原因になります。また、アルコール・シンナー・ベンジン・洗剤等で拭いたりしないでください。

■ 使用温度について

- 電池は、ご使用になるカメラの動作保証温度範囲内でご使用ください。
- 動作保証温度範囲内でも、低温になるほど使用時間が短くなります。予備の充電した電池をポケット等に入れて暖めておくことをお勧めします。ポケットにはショート防止のため、必ず付属の保護キャップをしっかり付けて、かつ電池以外のものは入れないでください。
- 充電時の周囲の温度は10℃～30℃の範囲が適切です。
- カメラの使用直後等、電池の温度が高い場合があります。この状態では充電が不完全になることがありますので電池の温度が下がってから充電してください。

■ 持ち運び保管時の注意

- 保管の際、電池を充電器やカメラに取り付けたままにしておくと、電源OFF状態でも少量の電流が流れ続け電池の性能劣化の原因となります。ご使用にならないときは付属の保護キャップを付けて湿気の少ない15℃～25℃くらいの涼しい場所で保管してください。
- 持ち運び・保管の際は＋－電極端子がショートしないように必ず付属の保護キャップをしっかり付けてください。バッグや引き出し等にアクセサリ等金属類と一緒に入れて保管したり持ち運んだりするのはおやめください。発火・発熱・破裂・漏液の原因になり危険です。

■ 充電池の寿命について

- 電池は充放電を繰り返すことにより性能が徐々に劣化します。使用時間が著しく短くなったら交換時期です。使用条件にもよりますが、約500 回の充放電で電池容量が半減します。

■ 不要になった電池のリサイクルについて

- このマークは小型充電式電池の再利用を目的として制定されたリサイクルマークです。充電式電池に用いられる希少な資源を有効に活用するためにリサイクルにご協力ください。電池は「充電式電池リサイクル協力店くらぶ」加入の電気店またはスーパー等に設置のリサイクルボックスで回収しています。詳しくは社団法人電池工業会ホームページ（ http://www.baj.or.jp/recycle/ ）をご覧ください。

  なおご不要の電池は必ず付属の保護キャップを付けてテープで止めるか、全ての＋極と－極をセロテープ等で絶縁してからリサイクルボックスに入れてください。

■ 充電時の注意

- 充電の最中に充電器や電池が暖かくなりますが、異常ではありません。
- 充電の最中にテレビ･ラジオにノイズがのることがありますが故障ではありません。そのような場合にはテレビ・ラジオから離れた場所でご使用ください。

■ 海外へお持ちになる方について

- 本機器を海外でご使用の際は、ご使用になる地域のコンセントに合った変換プラグが必要です。変換プラグアダプタにつきましては、あらかじめ旅行代理店等にお尋ねください。電子式変圧器（トラベルコンバーター）は故障の原因になりますのでご使用なさらないでください。

主な仕様

リチウムイオン電池 BLM-1

MODEL NO.　：PS-BLM1
形式　：充電式リチウムイオン電池
公称電圧　：DC7.2V
公称容量　：1500mAh
充放電回数　：約 500 回（使用する条件により異なります。）
使用周囲温度　：0 ℃～ 40 ℃（充電）
-10 ℃～ 60 ℃（動作時）
-20 ℃～ 35 ℃（保存時）
大きさ　：約 39mm（幅）× 55mm（奥行き）× 21.5mm（高さ）
質量　：約 75g（保護キャップ含まず）

リチウムイオン充電器 BCM-2

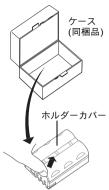
MODEL NO.　：PS-BCM2
定格入力　：AC100V ～ 240V(50/60Hz)
定格出力　：DC8.35V. 400mA
充電時間　：約 300 分（約 5 時間）（常温：BLM-1 ご使用の場合）
使用周囲温度　：0 ℃～ 40 ℃（動作時）/ -20 ℃～ 60 ℃（保存時）
大きさ　：約 62mm（幅）× 83mm（奥行き）× 26mm（高さ）
質量　：約 72g（電源コード含まず）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありまので、あらかじめご了承ください。

リチウム電池ホルダー LBH-1 の使い方

リチウム電池CR123A（市販）を3本用意します。

1 **ケースから取り出します。**

2 **矢印部を押しながら図のようにホルダーカバーを外します。**

3 **電池を図の向きに入れます。**

4 **ホルダーカバーを図のように付けます。**

■ **お使いになれる機器**

- デジタルカメラ　E-500、E-1、E-300
- パワーバッテリーホルダー　HLD-3

■ **安全上の注意**

- 指定された機器以外には使用しないでください。
- パワーバッテリーホルダーなど複数の電池が装填できる機器に使用する場合は、本製品とリチウムイオン充電池BLM-1を同時に装填しないでください。
- リチウム電池CR123Aは充電池ではありません。誤って充電器にセットしないようにご注意ください。また電池の極性を逆に入れないでください。発火・爆発などの恐れがあり危険です。

- 金属類と一緒に持ち歩く場合は、付属のケースに入れ、ショートしないようにご注意ください。また電池の隙間などに金属が入り込まないようにご注意ください。
- 分解、加熱、水中への投入、水に濡らすことは発火・爆発の恐れがあり危険ですので、行わないでください。

■ **ご使用上の注意**

- 電池を入れたまま持ち運んだり、保管する場合は必ず付属のケースに入れておいてください。
- 車のダッシュボード、暖房機のそばなど、高温になる場所に保管しないでください。
- 電池を交換するときは 3 本とも同時に交換してください。
- 古い電池、新しい電池を混ぜて使用しないでください。
- 製造メーカー、種類の違う電池を混ぜて使わないでください。

■ **電池に関するご注意**

- 電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液漏れ・発熱・破損の原因となります。交換するときは(+)(-)の向きに注意して正しく入れてください。
- 電池をショートさせたり、分解や充電したり、火の中に入れると破裂・発火のおそれがあります。
- 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。また、万が一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
- 電池は一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用する時は、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の (+)(-) 極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では地域によって入手困難なことがあります。
- 電池に記載されている注意事項を守ってください。
- ご使用済みの電池は一般廃棄物として、各自治体の指示に従って処理してください。
- カメラを長期間使用しないときは、液漏れの危険がありますので、電池をカメラから取り出して、20℃以下の湿度の低いところに保存してください。

主な仕様

MODEL NO. :PS-LBH1
大きさ :約 39mm(幅）× 55mm(奥行き）× 21.5mm（高さ）
質量 :約 20g（ケース除く）

今後発売されるオリンパスデジタルカメラ等との組み合わせについては当社ホームページをご覧になるか、カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

ZUIKO DIGITAL 交換レンズについて

安全上の注意

レンズで太陽を見ないでください。

カメラに取り付けた状態でレンズを太陽に向けないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。

レンズキャップを付けずに放置しないでください。太陽光が焦点を結んで故障や火災の原因になることがあります。

取り扱い上の注意

使用温度範囲

急激な温度変化

接点部を下にして置かないでください。

強い力

レンズに触れないでください。

水没

接点部に触れないでください。

落下

有機溶剤

多湿

磁気

ズームやフォーカシング動作により撮り出されたレンズ部でカメラを保持しないでください。

保管上のご注意

使わないときはレンズキャップを付けておいてください。

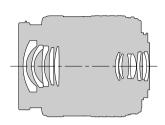
レンズの清掃

防虫剤のあるところ

故障したら
オリンパス岡谷修理センターへ

ZUIKO DIGITAL 14-45mm F3.5-5.6

■ 特長

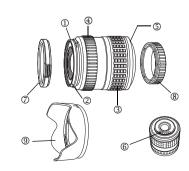
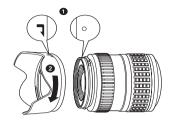
- オリンパスデジタルカメラ一眼レフ「フォーサーズシステム」専用の高い描写力を持つレンズです。
- 35mmフィルムカメラで28-90mmに相当する標準ズームレンズです。
- 非球面レンズ2枚を含む10群12枚のズームレンズです。
- 別売のテレコンバータEC-14は、マニュアルフォーカス（MF）で使用できます。
- 別売のエクステンションチューブEX-25は下記の範囲で使用できます。

レンズ構成

焦点距離	ピント合わせ	撮影可能範囲	倍率 （）は 35mm フィルムカメラ換算
14mm	ピントが合わないため使用できません。		
25mm	MF	15.3cm～15.7cm	0.99～1.14x（1.98～2.28x）
45mm	MF	20.8cm～23.5cm	0.57～0.78x（1.14～1.56x）

撮影時のご注意

- フィルターを2枚以上重ねたり、厚さのある種類を使用したときは、画面にケラレが生ずることがあります。

■ 各部の名称

① フード取り付け部
② フィルター取り付けネジ
③ ズームリング
④ フォーカスリング
⑤ 取り付け指標
⑥ 電池回路接点
⑦ フロントキャップ
⑧ リアキャップ
⑨ レンズフード

■ フードの取り付け方

逆光時はフードを取り付けて撮影してください。

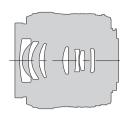
■ フードの収納のしかた

主な仕様

マウント	:	フォーサーズ マウント
焦点距離	:	14 ～ 45mm
最大口径比	:	F3.5 ～ 5.6
画角	:	75° ～ 27°
レンズ構成	:	10 群12 枚 多層膜コーティング（一部単層）
絞り制御	:	F3.5 ～ 22
撮影距離	:	0.38m ～∞（無限遠）
ピント調整方式	:	AF/MF 切り換え
質量	:	285g（フード、キャップを除く）
大きさ 最大径×全長	:	φ 71 × 86.5mm
レンズフード取り付け	:	バヨネット式
フィルター取り付けネジ径	:	58mm

ZUIKO DIGITAL 17.5-45mm F3.5-5.6

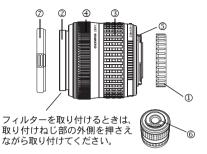
■ 特長

- オリンパスデジタルカメラ一眼レフ「フォーサーズシステム」専用の高い描写力を持つレンズです。
- 35mm フィルムカメラで 35-90mm に相当する標準ズームレンズです。
- 非球面レンズ2枚を含む7群7枚のズームレンズです。
- 別売のテレコンバータEC-14は、マニュアルフォーカス（MF）で使用できます。
- 別売のエクステンションチューブ EX-25 は下記の範囲で使用できます。

焦点距離	ピント合わせ	撮影可能範囲	倍率 （）は 35mm フィルムカメラ換算
17.5mm	ピントが合わないため使用できません。		
28mm	MF	15.1cm～15.9cm	0.89～1.16 x （1.78～2.32 x）
45mm	MF	18.4cm～22.4cm	0.57～0.91 x （1.14～1.82 x）

撮影時のご注意

- 焦点距離17.5mmで撮影時の液晶モニタ表示は17mmと表示されます。

■ 各部の名称

① リアキャップ
② フィルター取り付けネジ
③ ズームリング
④ フォーカスリング
⑤ 取り付け指標
⑥ 電池回路接点
⑦ フロントキャップ

主な仕様

マウント	: フォーサーズ マウント
焦点距離	: 17.5 ～ 45mm
最大口径比	: F3.5 ～ 5.6
画角	: 63° ～ 27°
レンズ構成	: 7 群7枚
絞り制御	: F3.5 ～ 22
撮影距離	: 0.28m ～∞（無限遠）
ピント調整方式	: AF/MF 切り換え
質量	: 210g（キャップを除く）
大きさ 最大径×全長	: φ71 × 70mm
フィルター径	: 52mm

索引

英数・記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

オリンパスイメージング株式会社

〒163-0914 **東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス**

- **ホームページによる情報提供について**
  製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を弊社ホームページで提供しております。
  オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。

- **製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）**

  フリーダイヤル **0120-084215**
  携帯電話・PHSからは 0426-42-7499
  FAX **0426-42-7486**

  調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

  カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。
  オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から
  「お客様サポート」のページをご参照ください。

- **修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）**につきましては、本製品に**同梱の「オリンパス代理店リスト」**、またはオリンパスホームページ
  http://www.olympus.co.jp/ から
  「お客様サポート」のページをご参照ください。

  記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ
  http://www.olympus.co.jp/ をご確認ください。

Printed in China

VH341801